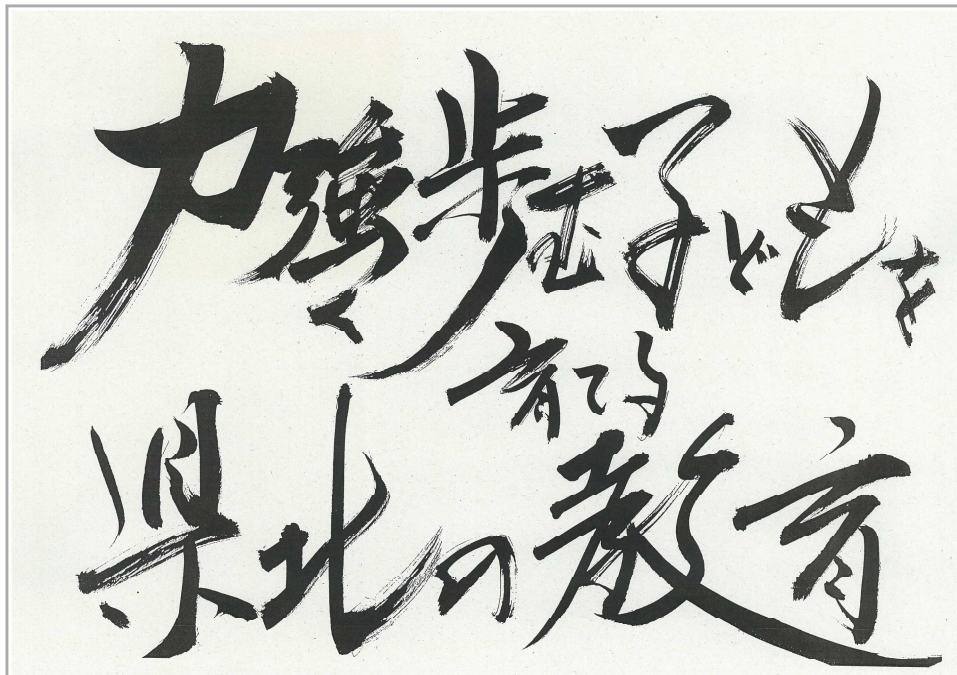


平成29年度

# 【県北版】学校教育指導の重点



福島県教育庁県北教育事務所

# 目 次

ページ

<b>1</b>	<b>【県北版】学校教育指導の重点の発行に当たって</b> -----	1
<b>2</b>	<b>平成29年度学校教育指導の重点全体構想</b> 平成29年度学校教育指導の重点全体構想 -----	2
<b>3</b>	<b>各教科等の指導の重点</b> 各教科等の指導の重点の見方 -----	3
	(1) 各教科 -----	
	○ 国 語 -----	4
	○ 社 会 -----	5
	○ 算 数・数 学 -----	6
	○ 理 科 -----	7
	○ 生 活 -----	8
	○ 音 楽 -----	9
	○ 図画工作・美術 -----	10
	○ 体育・保健体育 -----	11
	○ 家 庭 -----	12
	○ 技 術・家 庭 -----	13
	○ 外国語（英語） -----	14
	(2) 外国語活動 -----	15
	(3) 道 徳 -----	16
	(4) 特別活動 -----	17
	(5) 総合的な学習の時間 -----	18
<b>4</b>	<b>各種教育の指導の重点</b>	
	(1) 生徒指導 -----	19
	(2) キャリア教育 -----	20
	(3) 図書館教育 -----	21
	(4) 情報教育 -----	22
	(5) 環境教育 -----	23
	(6) へき地・小規模教育 -----	24
	(7) 国際理解教育 -----	25
	(8) 防災教育 -----	26
	(9) 健康教育 -----	27
	(10) 放射線教育 -----	28
	(11) 人権教育 -----	29
	(12) 幼稚園教育 -----	30
	(13) 特別支援教育 -----	32
<b>5</b>	<b>資料</b> 平成28年度の要請訪問を振り返って -----	35

# 1 【県北版】学校教育指導の重点の発行に当たって

## 要請訪問から

平成28年度、県北教育事務所では、小・中学校や幼稚園の授業（保育）研究会へ要請訪問として、延べ120を超える学校・園に訪問をさせていただきました。

多くの学校・園において、子どもたちが、温かい雰囲気の中で意欲的に生き生きと課題解決に取り組んでいる姿を見ることができました。



## 3つの資料

県北教育事務所として、「【県北版】学校教育指導の重点」を作成し、各教科等の学習指導と各種教育の今年度の重点について示しました。さらに補完する資料として、「【県北版】リーフレット」と「【参考資料】確かな学力の向上のために」を作成しました。

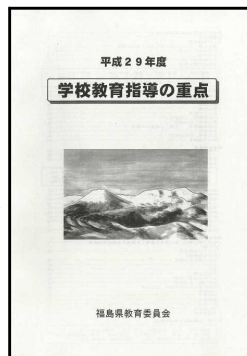
これら3つの資料を活用して、県北域内の先生方が、更なる学力向上のための授業改善に積極的に取り組んでいただくことを期待します。

### 「【県北版】学校教育指導の重点」

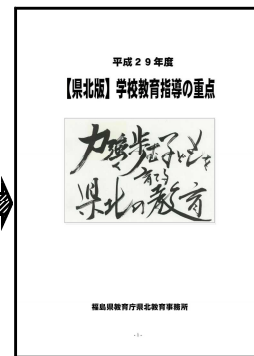
福島県教育委員会発行の「学校教育指導の重点」を受けて、県北教育事務所として域内の学校で取り組んでほしい指導の重点を解説しています。

今年度は、各教科等で重視したい授業づくりのポイントを掲載しました。

各学校1冊ずつ配付しています。必要に応じて、校内で増刷してお使いください。



【県版】



【県北版】

### 「【県北版】リーフレット」

「【県北版】学校教育指導の重点」のダイジェスト版的性格をもっています。

先生方一人一人に配付しますので、常に手元に置いて自身の授業実践を振り返る指標としてほしいと考えています。

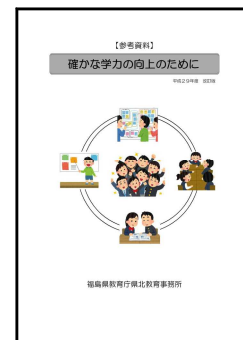
授業づくりのことについて、さらに詳しく知りたい場合には、「【県北版】学校教育指導の重点」や「【参考資料】確かな学力の向上のために」を御覧ください。



### 「【参考資料】確かな学力の向上のために」

授業づくりのポイントについて、授業のあり方や支援の仕方等を具体的に示しました。

先生方が日々の授業の準備をする時や校内研修の機会などに、授業づくりの参考資料として活用してほしいと考えています。



※ 上記3つの資料は、県北教育事務所ホームページよりダウンロード可能です。

福島県 県北教育



平成29年度  
**学校教育指導の重点  
 全体構想**  
 福島県教育庁県北教育事務所

# 力強く歩む子どもを育てる県北の教育

夢実現に向けてがんばる子どもたちに  
**生き抜く力の育成**



**第6次福島県総合教育計画**  
 基本理念 “ふくしまの和”で奏でる、こころ豊かな  
 たくましい人づくり  
 基本目標  
 ○ 知・徳・体のバランスのとれた社会に貢  
 献する自立した人間の育成  
 ○ 学校、家庭、地域が一体となった教育の  
 実現  
 ○ 豊かな教育環境の形成

小 ・ 中 学 校 の 教 育	<b>確かな学力</b> 「意欲的に課題に取り組み、解決する子ども」 ★ 問題解決的な学習を中軸とした授業の充実 【授業づくりの6つのポイント】 □ 単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構想の工夫 □ ねらいからまとめまでの整合性を図り、子どもの思考を大切にしながら、目指す子どもの姿と手立てを明確にした授業の設計 □ 必然性があり意欲が高まる学習課題の設定と解決への見通しをもたせる工夫 □ 思考を促し、見取り、生かす教師の働きかけの充実 □ 思考の共有と吟味を促す学び合いをコーディネートする力の向上 □ 学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実 ★ 明確な目標設定による組織的な学力向上策の推進 □ 定着確認シート等を活用したショートサイクルのPDC Aサイクルの充実 □ 全国学力・学習状況調査等を活用したロングサイクルの取組の工夫 □ 学校課題克服のために一人一人の教職員の役割を明確にした取組の充実	<b>豊かなこころ</b> 「心が通う人間関係を築く子ども」 ★ 道徳教育の充実 □ 指導の重点を明確にした全体計画の作成 □ 多様な指導方法と子どもの心に響く授業展開の工夫 □ 道徳の時間の授業公開と学校間・異校種間の連携強化 ★ 生徒指導の充実 □ 子どもの的確な見取りと組織による予防的な取組の推進 □ 不登校やいじめ未然防止・早期対応のための具体的方策についての共通実践 □ 教育相談体制の充実とSC、SSWや関係機関等との連携 ★ 体験活動の充実 □ 地域の大人や異年齢集団との交流の充実 □ 自然体験活動や奉仕体験活動等、子どもの発達段階に応じた体験活動の充実 □ 職場体験等を通して、自己の生き方を考える機会の設定と充実	<b>健やかな体</b> 「進んで体力の向上と健康づくりに励む子ども」 ★ 進んで運動する態度の育成 □ 12年間を見通したバランスの取れた指導計画の作成 □ 子どもが主体的に学習する授業づくりと実質的な運動時間の確保 □ 体力向上推進計画書に基づく体力向上策の共通理解・共通実践 □ 授業以外の体育的活動（業間活動・部活動等）に対する組織的取組 ★ 健康で安全な生活を実践する態度の育成 □ 各教科等の特質に応じた保健学習・保健指導の充実 □ 給食指導の充実及び家庭や地域と連携した計画的な食育の推進 □ 身の回りの危険を予測し、回避する能力を育む安全指導の推進 □ 主体的に判断し、行動する態度を育む防災教育・放射線教育の充実	<b>学級・学習集団づくり</b> ～安心感・存在感・向上心～ □ 相手を尊重しながら自分の意見を主張できる態度の育成 □ 一人一人のリーダー性が育まれる機会の確保 □ 学級経営方針の明確化と教師が互いに支え合う体制づくり □ プロセスを認め、奨励、称賛する教師の姿勢 □ 子ども同士が互いのよさや成長を認め合う場の設定 □ 全員が気持ちよく学ぶためのルールの明確化	<b>特別支援教育</b> ～「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進～ ★ 全教職員の連携による校(園)内支援体制の充実 □ チームによる支援体制の整備と活性化 ★ 一人一人のニーズに応じた指導の充実 □ 合理的配慮の提供と「個別の教育支援計画」の作成・活用 □ 「個別の指導計画」に基づく授業の評価・改善 □ 特別支援教育の視点を生かした環境設定や指導の工夫 ★ 集団とのかかわりを重視したよりよい友達関係の充実 □ 一人一人のよさや特性、違いを認め合う集団づくりの推進 □ ねらいを明確にした交流・共同学習の推進 ★ 学校、家庭、地域及び関係機関との連携 □ 学校間や関係機関との連携による一貫した支援の充実 □ 特別支援学校のセンタ－的機能等の積極的な活用による授業や支援の充実
	～5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）を踏まえた保育の充実～ ★ 長期的・短期的な見通しをもった指導計画の作成・改善 □ 長期的計画と短期的計画との往還 □ 生活・発達・学びの連続性を踏まえた指導計画 ★ 主体的な活動が確保される保育の充実 □ 幼児期運動指針を踏まえた遊びの工夫 □ 教師の人的環境としての援助 □ 特別な支援が必要な子どもの実態に応じた指導の工夫 ★ 育ちつつある面やよさに目を向けた評価の工夫・活用 □ 次の手立てに生かす評価の工夫 □ 情報交換・意見交換による子どもの見取り				



※ □の項目は、自分の指導を振り返るためのチェック項目として活用してください。

＜各教科等の指導の重点の見方＞

今年度の各教科等の指導の重点には、「問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために」の欄を設けました。2ページに掲載の全体構想図にある【授業づくりの6つのポイント】のうち、各教科等で重視したいポイントを2つ選び、具体的な手立てについて示してあります。

【授業づくりの6つのポイント一覧】

ポイント1	単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構想の工夫
ポイント2	ねらいからまとめまでの整合性を図り、子どもの思考を大切にしながら、目指す子どもの姿と手立てを明確にした授業の設計
ポイント3	必然性があり意欲が高まる学習課題の設定と解決への見通しをもたせる工夫
ポイント4	思考を促し、見取り、生かす教師の働きかけの充実
ポイント5	思考の共有と吟味を促す学び合いをコーディネートする力の向上
ポイント6	学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

教科	算数・数学 (小・中)
指導の重点	努力事項
指導計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付け、数学的な見方や考え方の育成を図るために、子どもの実態に応じて指導計画を改善する。</li> <li>子どもの実態や系統性を踏まえて、軽重を付けた指導内容の重点化を図る。</li> <li>適切な学び直しを意識した年間指導計画を作成する。</li> <li>問題解決的な学習を重視し、思考力、判断力、表現力等を育成する。</li> <li>適切に習熟の機会を設け、知識技能の定着を図る。</li> </ul>
指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが学習の主体者となるために、子どもの問いを引き出す課題設定の工夫をする。</li> <li>思考の共有と吟味をする学び合いの場を設け、知識及び技能の確かな定着や数学的な考え方の育成を図る。</li> <li>子どもの考えの数学的な価値を見取り、適切に価値付けながら授業展開に生かしていく。</li> <li>ICT機器の活用を図り、実感を伴った理解を促す。</li> <li>学習内容を振り返りの場を位置付ける。</li> </ul>
評価の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>ねらいが達成された具体的な姿を明確にし、子どもの言葉を価値付けながら、指導と評価の一体化を図る。</li> <li>定着確認シートを積極的に活用する。</li> <li>評価規準や「育てたい力」を、子どもの具体的な姿として明確にする。</li> <li>家庭学習との接続を図りながら補充・補完を充実させる。</li> </ul>

◎… 特に重点的に取り組んでいただきたい項目です。下欄の授業づくりのポイントと関連しています。

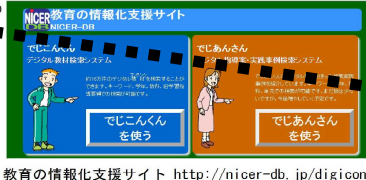
問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

※は参考文献等

授業づくりのポイント3 (【参考資料】確かな学力の向上のために) P9) 必然性があり意欲が高まる学習課題の設定と解決への見通しをもたせる工夫

◎ 子どもが学習の主体者となるために、子どもの問いを引き出す課題設定の工夫をする。

- 生活場面から問題を取り上げたり、操作を伴う算数・数学的活動を設定したりして興味関心を高め、事象に対して注目する視点を与えることで、疑問を感じさせ「問い」をもたせていく。また、「具体物」や「実演」、「ICT」を活用し提示方法を工夫する。
- 例 単元の学習で風呂に水をためる様子をVTRやコンピュータシミュレーションで提示したり、アニメーションで問題場面の理解を促したりして、変化する場合に注目させ、事象の含む要素をとらえられるようにする。



P9… 「【参考資料】確かな学力の向上のために」と関連するページを示しました。

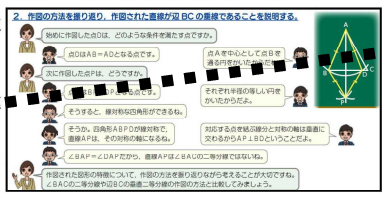
- 既習事項を発展させる視点で問いかけするなど、「問い」を引き出す課題提示の方法を工夫する。「できる」「できる」「あれ?」の提示を演出し「どうしてだろう?」を引き出す。
- 子どもが主体的に活動に取り組む見通しをもたせ方の工夫
  - ペアや小集団などで、めあて(学習課題)を確認させる。
  - 日常の事象と関連づけて、答えの見積もりを立てさせる活動を重視する。
  - レディネオテストで確認したり、学級の掲示を工夫したり、課題解決に活用できる既習事項を想起させる。

例… 各教科等の手立てに対しての具体例です。

授業づくりのポイント6 (【参考資料】確かな学力の向上のために) P15) 学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎ 学習内容を振り返る場を位置付ける

- 何が分かって、何が分からなかったのかを自覚させる。
- 例 ① 講師の考え方や方策を用いる適用問題に取り組み、学習内容を再生させることで、どこでつまづいたかを明らかにさせる。
- ② 板書やノートを振り返り、子どもが主体的につまづきを修正していく。
- 操作の手順を振り返ったり、どのような性質を使って課題を解決したのかを確認したりすることで学習内容が積み上がっていくことを実感させ、活用や発展の視点を育てる。
- 例 作図の方法を振り返り、図形の特徴の理解を深める活動



①… 展開例など、順序性があるものについては、丸番号で示しました。

※… 参考にしてほしい文献や資料、ウェブページ等を記載しました。

※ 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例 中学校 国立教育政策研究所 P9  
 ※ 授業改善ハンドブック「授業をつくる16の視点」 福島県 授業改善研修会 P26,P27

授業づくりのポイント6については、平成28年度の要請訪問の反省などから、平成29年度に重点的に取り組んでいただきたいポイントとして、どの教科にも記載しました。(道徳、特別活動、外国語活動、総合的な学習の時間は除く。)

教科 国語 (小・中)

	指導の重点	努力事項
指導計画の作成	○ 小・中学校9年間の目標及び内容の系統性を踏まえ、付けさせたい力を明確にするとともに、各学校の子どもの実態に応じた指導計画を作成する。	○ 小・中学校9年間の系統性を踏まえて、学習内容、指導事項及び単元の目標を明確にするとともに、子どもの実態に応じて重点化を図った年間指導計画を作成する。 ◎ <b>単元に合った言語活動を効果的に位置付けた指導計画を作成する。</b>
指導の工夫	○ 子ども一人一人が、日常・社会生活に必要な基礎的な国語の能力を言語活動を通して確実に身に付けることができるよう指導方法を改善する。	○ 「A話すこと・聞くこと」の領域では、日常・社会生活と関連させた話題を適切に取り上げ、学習したことが日常・社会生活に生きて働くよう配慮し、指導の効果を高める。 ○ 「B書くこと」の領域では、相手や目的、意図を明確にし、指導事項の構成に応じて、文章を実際に書く活動を多く設定する。 ○ 「C読むこと」の領域では、自ら課題を解決するとともに、主体的な思考・判断を伴う学びを充実させるために、学習過程を明確にする。また、読書活動を進めるに当たっては、読む目的を明確にし、子どもの読書意欲を高め、読書活動に主体的に取り組む態度を育てる。 ○ 各領域の中に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を適切に位置付け、意図的・継続的な指導に努める。
評価の充実	○ 子ども一人一人のよさや可能性を伸ばす指導に生きる評価を工夫する。	◎ <b>学習課題との整合性を図り、ノートへの記述等多様な方法で本時の振り返りの充実を図る。</b> ○ 個に応じて言語能力を高めることができるよう、評価の観点や評価規準を具体的に設定し、学習の過程や成果を的確にとらえ、指導の改善に生かす。

※は参考文献等

問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

授業づくりのポイント1 (「【参考資料】確かな学力の向上のために」P3)  
単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構想の工夫

◎ **単元に合った言語活動を効果的に位置付けた指導計画を作成する。**

- ・ 単元で身に付けさせたい力を明確にし、単元全体を見通して最適な言語活動を位置付ける。

例【小4単元構想例】

- ① 小4の「読むこと」の能力を育てるため、物語教材文を使って、「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像して読むこと」について指導する。
- ② 単元に合った言語活動として、「読んだ本のおもしろさを伝える読書新聞作り」を設定する。
- ③ 教材文を用いて読書新聞作りのための読みの視点について理解を深めさせる。
- ④ 単元の終末に並行して読んできた好きな本を紹介する読書新聞を作成させる。

※ 言語活動の充実に関する指導事例集  
～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～  
【小学校版】P47、48 (平成23年10月 文部科学省)

【言語活動の充実の工夫】

- 新聞記事で育成できる読む能力
  - あくまでも読む能力を育成するための活動
  - ・ 出来事を報道する記事
    - 物語のあらすじを説明する。
    - 場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化、情景を押さえて記事に書く。
  - ・ 解説記事
    - 紹介したい主人公の気持ちの変化などを場面の移り変わりと関わらせて解説する。
  - ・ インタビュー記事
    - 登場人物に架空のインタビューを行い、性格や気持ちの変化をとらえる。
  - ・ 紹介記事
    - 作者や関連する他の本を紹介する。

授業づくりのポイント6 (「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15)  
学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎ **学習課題との整合性を図り、ノートへの記述等多様な方法で本時の振り返りの充実を図る。**

- ・ めあてに対する学習内容について、板書を用いて振り返り、まとめは自分の言葉でノートにまとめさせる。
- ・ 本時の学び(分かったこと、できるようになったこと)を自分の言葉で説明(再生)させる。
- ・ 友人との交流から得た学びについて、根拠と理由を明確にして文章化させる。
- ・ 言語事項の学習であれば適用問題に取り組みさせる。

教科 社会 (小・中)

	指導の重点	努力事項
指導計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に社会的事象の意味を追究し、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けることができるよう指導計画を改善する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の実態を十分に把握し、地域の社会的事象を取り上げた学習や体験的な学習を指導計画に位置付ける。学習能力の実態や発達の段階に応じて、「適切な課題を設けて行う学習」を指導計画に位置付け、課題を解決する能力を一層培うようにする。</li> <li>小・中学校社会科の内容の関連や系統性を踏まえるとともに、「育成する力」を明確にして具体的な事例の適切な選択や指導内容の重点化を図る。</li> </ul>
指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>学び方や調べ方の学習、作業的、体験的な学習や問題解決的な学習を工夫し、子どもの主体的な学習を一層推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題を追究したり、考察したりする学習を通して、学び方や調べ方、資料活用の仕方、社会的事象についての見方や考え方を身に付けられるようにする。</li> <li>◎ 子ども同士が、調べたことや考えたことを書いたり、説明したりする場、社会的事象の意味や意義を根拠を明らかにして解釈したりする場を設け、言語活動の充実を図る。</li> </ul>
評価の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>ねらいが達成された具体的な姿を明確にし、子どものよさや可能性を伸ばす評価を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の成果だけでなく学習の過程において、取組状況や進歩の様子などを把握し評価することにより、学習意欲の喚起を図るとともに、その後の指導に生かすようにする。</li> <li>◎ 相互評価や自己評価を取り入れるなどして、児童生徒が自分のよい点や進歩を実感できる多面的・多角的な評価に努め、学習意欲の向上を図る。</li> </ul>

問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

※は参考文献等

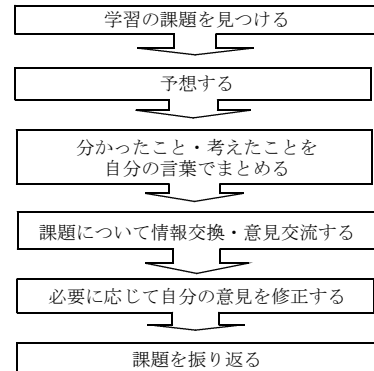
授業づくりのポイント5 (「【参考資料】確かな学力の向上のために」P13)  
 思考の共有と吟味を促す学び合いをコーディネートする力の向上

◎ 子ども同士が、調べたことや考えたことを書いたり、説明したりする場、社会的事象の意味や意義を根拠を明らかにして解釈したりする場を設け、言語活動の充実を図る。

・ 子ども同士の学び合いを通して、結論に向けた理由付けを行い、社会的事象の意味や意義をつかませる活動を取り入れる。

問題解決的な学習のパターン例(右記)における「調べる」「まとめる」「情報交換・意見交流する」を重視する。

- 【例】
- 教科書、資料集、図書等を活用して情報を収集及び選択し、調べたこと、分かったこと、考えたことを子ども一人一人にまとめさせる。
  - ペア学習・グループ学習・一斉など、ねらいに応じて適切な形態で学び合う時間を設定する。その際、発表のみにとどまるのではなく、学びを深めること(新たな発見や気づき、考えの変化や修正、理由付けの話合いなど)につながる交流となるようにする。
  - 学級全体で、本時の学習課題に対する社会的事象の意味や意義を、根拠を明らかにして結論付ける。



教師は、①～③の過程で子ども一人一人の学びを見取り、思考を高める言葉かけをしたり、子どもの考えをつないだりする。

授業づくりのポイント6 (「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15)  
 学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎ 相互評価や自己評価を取り入れるなどして、児童生徒が自分のよい点や進歩を実感できる多面的・多角的な評価に努め、学習意欲の向上を図る。

・ 学習の過程に視点を置き、感想を書かせたり、発表させたり、自己評価させたりする。

【振り返りの視点としての例】

- 「何が分かったのか」(知識・理解)
  - 「どのようにして分かったのか、考えたのか」(根拠、学び方)
  - 「どうして考えや結論が変わったのか」(学びの変容)
  - 「次はどのようなことを知りたいか、どのようなことをしたいか」(関心・意欲) など
- これらの視点は網羅的に設定するのではなく、焦点化させながら単元の指導計画に位置付けるようにする。

※ 評価規準作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校・中学校 社会】(平成23年11月 国立教育政策研究所)

教科 算数・数学 (小・中)

	指導の重点	努力事項
指導計画の作成	○ 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付け、数学的な見方や考え方の育成を図るために、子どもの実態に応じて指導計画を改善する。	○ 子どもの実態や系統性を踏まえて、軽重を付けた指導内容の重点化を図る。 ○ 適切な学び直しを意識した年間指導計画を作成する。 ○ 問題解決的な学習を重視し、思考力、判断力、表現力等を育成する。 ○ 適切な習熟の機会を設け、知識技能の定着を図る。
指導の工夫	○ 算数的活動、数学的活動を通して、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付け、数学的な見方や考え方の育成を図るために、子どもの思考過程を十分に見通した授業展開に努める。	◎ <b>子どもが学習の主体者となるために、子どもの問いを引き出す課題設定の工夫をする。</b> ○ 思考の共有と吟味をする学び合いの場を設け、知識及び技能の確かな定着や数学的な考え方の育成する。 ○ 子どもの考えの数学的な価値を見取り、適切に価値付けながら授業展開に生かしていく。 ○ ICT機器の活用を図り、実感を伴った理解を促す。 ◎ <b>学習内容を振り返りの場を位置付ける。</b>
評価の充実	○ ねらいが達成された具体的な姿を明確にし、子どもの言葉を価値付けながら、指導と評価の一体化を図る。	○ 定着確認シートを積極的に活用する。 ○ 評価規準や「育てたい力」を、子どもの具体的な姿として明確にする。 ○ 家庭学習との接続を図りながら補充・補完を充実させる。

※は参考文献等

問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

授業づくりのポイント3 (【参考資料】確かな学力の向上のために) P9  
必然性があり意欲が高まる学習課題の設定と解決への見通しをもたせる工夫

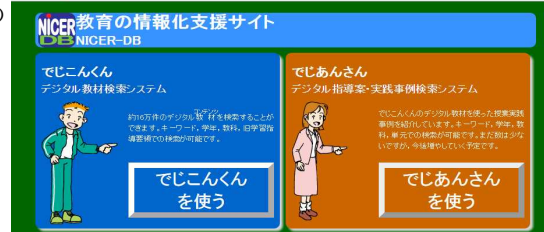
◎ **子どもが学習の主体者となるために、子どもの問いを引き出す課題設定の工夫をする。**

- 生活場面から問題を取り上げたり、操作を伴う算数・数学的活動を設定したりして興味関心を高め、事象に対して注目する視点を与えることで、疑問を感じさせ「問い」をもたせていく。また、「具体物」や「実演」、「ICT」を活用し提示方法を工夫する。

例 比例の学習で風呂に水をためる様子をVTRやコンピュータシミュレーションで提示したり、アニメーションで問題場面の理解を促したりして、変化するものに注目させ、事象の含む要素をとらえられるようにする。

- 既習事項を発展させる視点で問いかけるなど、「問い」を引き出す課題提示の方法を工夫する。

例 「できる」「できる」「あれ?」の提示を演出し「どうしてだろう?」を引き出す。



教育の情報化支援サイト <http://nicer-db.jp/digicon>

- 子どもが主体的に活動に取り組む見通しのもたせ方の工夫
  - ペアや小集団などで、めあて(学習課題)を確認させる。
  - 日常の事象と関連づけて、答えの見積もりを立てさせる活動を重視する。
  - レディネステストで確認したり、学級の掲示を工夫したり、課題解決に活用できる既習事項を想起させる。

授業づくりのポイント6 (【参考資料】確かな学力の向上のために) P15  
学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎ **学習内容を振り返る場を位置付ける。**

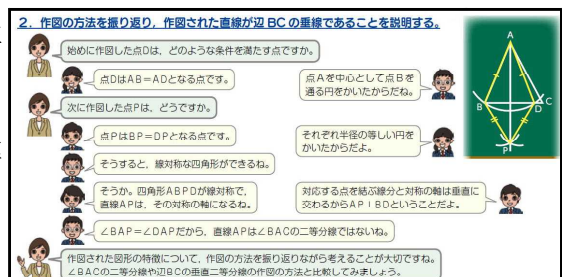
- 何が分かって、何が分からなかったのかを自覚させる。

例 ① 本時の考え方や方策を用いる適用問題に取り組み、学習内容を再生させることで、どこでつまづくのかを明らかにさせる。

② 板書やノートを振り返り、子どもが主体的につまづきを修正していく。

- 操作の手順を振り返ったり、どのような性質を使って課題を解決したのかを確認したりすることで学習内容が積み上がっていくことを実感させ、活用や発展の視点を育てる。

例 作図の方法を振り返り、図形の特徴の理解を深める活動



※ 平成28年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例 中学校 国立教育政策研究所 P9

※ 授業改善ハンドブック「授業をつくる16の視点」 福島県 授業改善研修会 P26,P27

※ 平成28年度 全国学力・学習状況調査 小学校算数【報告書】 国立教育政策研究所 P26, P31, P36, P39



# 教科 理科 (小・中)

	指導の重点	努力事項
指導計画の作成	○ 観察、実験に基づく、主体的・探究的な活動を重視した指導計画に改善する。	○ 子どもや学校、地域の実態を踏まえ、身近な自然の事物や現象を対象とした直接体験及びものづくりなどの科学的な体験を充実させる。また、子どもが主体的に観察、実験や課題解決のための探究活動に取り組む時間を十分に確保した指導計画を作成する。 ○ 小・中・高等学校の学習内容の系統性を踏まえた指導計画を作成する。
指導の工夫	○ 問題解決の能力・科学的に探究する能力の基礎と態度を育て、科学的な見方や考え方を育成する指導法の工夫と改善に努める。	◎ <b>主体的に問題を見だし、課題を追究する力を育成するために、自然に対する興味・関心や知的好奇心、目的意識を高める工夫をする。</b> ○ 問題解決の能力や態度、分析して解釈する能力の育成を図るため、各内容の特質に応じて観察、実験等の工夫をする。 ○ 自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を育成するために、観察、実験の結果を整理・考察したり、科学的な概念を用いて表現したりする言語活動の充実を図る。
評価の充実	○ よさや可能性を積極的に見だし、伸ばす評価を工夫する。	◎ <b>子ども一人一人の進歩の状況などを積極的に評価し、学習意欲を高める指導に生かす。</b> ○ ノートやレポート、ワークシートなど、授業後に教師が確認しながら行う評価を累積するとともに、授業中に見取りによる評価を適切に組み合わせる。

※は参考文献等

## 問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

### 授業づくりのポイント3 (「【参考資料】確かな学力の向上のために」P9)

#### 必然性があり意欲が高まる学習課題の設定と解決への見通しをもたせる工夫

#### ◎ 主体的に問題を見だし、課題を追究する力を育成するために、自然に対する興味・関心や知的好奇心、目的意識を高める工夫をする。

##### 【子ども主体の理科学習チェック8項目】

- ① 子どもが主体となって問題を見だしているか。
- ② 問題に正対した予想や仮説の設定をしているか。
- ③ 予想や仮説を検証できそうな観察、実験の計画を立てているか。
- ④ 目的に応じて適切に観察、実験を行っているか。
- ⑤ 観察、実験の結果を適切に処理しているか。
- ⑥ 観察、実験の結果と予想や仮説を照らし合わせて考察し、自分の考えを表現しているか。
- ⑦ 問題解決を通して、科学的な概念を構築し知識や技能を獲得しているか。
- ⑧ 獲得した知識や技能を活用し、考察しているか。また、獲得した知識や技能を実際の自然や日常生活の中で適用しているか。

※ 理科学習指導プランP2～4 (平成26年3月 福島県教育委員会)

##### 〈体験活動と言語活動が織りなす理科授業の流れ〉



### 授業づくりのポイント6 (「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15)

#### 学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

#### ◎ 子ども一人一人の進歩の状況などを積極的に評価し、学習意欲を高める指導に生かす。

- ・ 観察や実験から得られた知識を日常生活に適用し、新しい問題を見いだす場面を設定する。
- ・ 「〇〇日記」などの記録が「単なる感想」でなく「どのように学んだか」を振り返った内容になるよう継続的に指導し、自分自身の成長を実感できるようにする。
- ・ レポートや記録から望ましい学びの姿を積極的に見取り、その後の指導と評価に反映させる。

教科 生 活

	指導の重点	努力事項
指導計画の作成	○ 子どもが自ら考え判断し決定する資質や能力が育つように、2年間を見通した指導計画に改善する。	◎ <b>幼児教育との接続の観点から、生活科を核としたスタートカリキュラムの作成・改善を組織的に行う。</b> ○ 学習の対象と繰り返しかかわることができる指導計画を作成する。 ○ 時間的・空間的・心理的なゆとりを大切にし、子どもがじっくり活動できて、気付きの質が高まる多様な学習活動を取り入れた指導計画を工夫する。
指導の工夫	○ 子どもが対象とのやりとりを通して、よりよく問題を解決することができるような学習の展開と過程を重視する。	○ 学習の対象との情緒的なかかわりを重視し、気付きの質を高めて次の活動につなげるようにする。 ○ 子どもが自らの思いや願いを実現し、充実感、達成感、自己有能感、一体感などを感じ取ることができるよう学習活動を工夫する。 ○ 活動を通して獲得した情報を交換する場面や自ら判断し自己決定する場面に授業に位置付ける。
評価の充実	○ 子どもの活動の様子などから、一人一人の思いの実現の程度を把握しながら指導に生かし、自信や意欲につなげる評価を工夫する。	○ 子どもの活動の様子などから、一人一人の内面、活動や体験の広がりや深まり及びその中の気付きなどの進歩の状況を把握し、次の指導に生かせるように工夫する。 ○ 子どもを多様な方法で多面的、総合的に見取り、一人一人のよさや可能性を把握することに努める。 ◎ <b>子どもの発言やつぶやき、行動、作品などの「表現」を通して子どもの「思考」をとらえる評価に努める。</b>

※は参考文献等

問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

授業づくりのポイント1 (「【参考資料】確かな学力の向上のために」P3)

単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構想の工夫

◎ **幼児教育との接続の観点から、生活科を核としたスタートカリキュラムの作成・改善を組織的に行う。**

- ・ 各幼稚園、保育所、認定こども園との連携協力をするとともに、幼児期の遊び体験を単元や授業の指導計画に取り入れる。

【例】 【スタートカリキュラムの作成の手順】

- ① 成長の姿を週や月の単位で明らかにする。
- ② 成長の姿に適合した単元(合科・関連など)を構成し配列する。
- ③ 単元計画に基づいた学習活動を週の計画として時間配分する。  
(単元や学習活動を週案の形で具現化していくことが有効である。)

※ スタートカリキュラムスタートブック(平成27年1月 国立教育政策研究所)



授業づくりのポイント6 (「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15)

学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎ **子どもの発言やつぶやき、行動、作品などの「表現」を通して子どもの「思考」をとらえる評価に努める。**

- ・ 自分のしたことや見たことを絵や言葉などで表現したり、相手意識や目的意識をもって伝え合ったりする場面を設定する。

【例】 子どもなりの思考の流れを生かし、ストーリー性を意識して紙芝居に表現したり、友達に分かりやすく伝えるために、ニュースキャスターになりきって伝えたりするなど、子どものやってみたいことを生かして、多様な方法で表現させる。

教科 音楽 (小・中)

	指導の重点	努力事項
指導計画の作成	○ 音楽活動の基礎的な能力の育成を図るために指導計画を改善する。	○ 小・中学校9年間の目標及び内容の系統性を踏まえ、学びの連続性を考慮し、各領域及び各分野がバランスよく配置された年間指導計画を作成する。 ◎ <b>【共通事項】を踏まえて題材で育成する力を明確にし、表現（歌唱・器楽・音楽づくり及び創作）と鑑賞との関連を図る。</b>
指導の工夫	○ 子どもが音楽活動の楽しさや喜びを味わい、主体的・創造的に学習に取り組むような指導方法を工夫する。	○ 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質を感受できるような学習活動を組織する。 ○ 音遊びや即興的な表現を取り入れ、音楽づくりの過程を楽しみながら、実際にいろいろな音楽表現を試し、互いの表現のよさを交流するなどして、音楽をつくる喜びを味わわせる。 ○ 子どもの実態に応じて、多様な表現形態を取り入れ、協働的な学習を促し、音と言葉によるコミュニケーションを図る指導を充実させる。 ○ 我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、音楽の多様性を理解することができるような指導を工夫する。
評価の充実	○ 子どもと音楽のかかわりを深め、一人一人の学びを支える適切な評価を工夫する。	○ 評価の観点をもとに、具体的な評価項目及び方法を明確にし、題材の評価規準及び指導と評価の計画を位置付け、それをもとに一人一人の学習状況を多面的に把握する。 ◎ <b>子どもが思いや意図をもって音楽表現を追究したり、音楽の美しさを味わったりする学習過程を組織し、子ども一人一人のよい点や成長の状況などを積極的に評価し、指導に生かす。</b>

※は参考文献等

問題解決的な学習を中軸とした授業充実のために

授業づくりのポイント1（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P3）  
単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構想の工夫

◎ **【共通事項】を踏まえて題材で育成する力を明確にし、表現（歌唱・器楽・音楽づくり及び創作）と鑑賞との関連を図る。**

- ・ 指導要領や教科書等によって子どもが前学年までに身に付けた知識や技能を把握する。
- ・ アンケートや観察によって、子どもの興味・関心や音楽的諸能力を把握して、教材の選択に生かす。
- ・ 歌唱や器楽の活動を通して学んだ音楽を特徴付けている要素及び音楽の仕組み、音符、休符、記号や音楽にかかわる用語を音楽づくりの活動に生かす。
- ・ 音楽を特徴付けている要素及び音楽の仕組み、音符、休符、記号や音楽にかかわる用語を歌唱や器楽の表現に生かす。
- ・ 表現の各活動で学んだ音楽を特徴付けている要素及び音楽の仕組み、音符、休符、記号や音楽にかかわる用語を鑑賞の活動に生かす。
- ・ 育みたい資質や能力を踏まえながら、関連のある指導内容や教材のまとまりを考慮して、題材構成やその配列に反映させる。

授業づくりのポイント6（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15）  
学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎ **子どもが思いや意図をもって音楽表現を追究したり、音楽の美しさを味わったりする学習過程を組織し、子ども一人一人のよい点や成長の状況などを積極的に評価し、指導に生かす。**

- ① 一人一人の子どもの思いや意図を大切に、いろいろと試すための時間を確保する。
- ② いろいろと試しながら自分が気付いたり感じたりしたこと、友達の表現のよさなどを言葉で表現する場面を設け、自己の変容や成長を実感させる。

※ 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 小学校・中学校（平成23年11月 国立教育政策研究所）

教科 図画工作・美術

	指導の重点	努力事項
指導計画の作成	○ 授業で育成すべき資質や能力を明確にし、子ども一人一人が個性を生かして、主体的・創造的に学習できる指導計画に改善する。	○ 幼稚園、小・中学校・高等学校の接続や〔共通事項〕を意識し、育てたい資質や能力を明確にして題材を構想できるように指導計画を改善する。 ○ 子ども一人一人のよさが発揮されるように、内容に幅のある題材を工夫し、指導計画に位置付ける。 ○ 表現と鑑賞のバランスと関連性及び〔共通事項〕の視点を生かした題材や授業のねらいの系統性を考慮して、調和の取れた指導計画に改善する。
指導の工夫	○ 子どもが感性を働かせながら、喜びをもって創造活動の基礎的能力を培うことができる授業展開を工夫する。  ○ 校内の鑑賞の環境づくりや美術館等の活用を図るとともに、安全指導を徹底する。	○ 題材を自分のものとして受け止め、表現への思いや願いをふくらませることができるよう、魅力ある題材との出会いを工夫する。 ◎ <b>表現及び鑑賞における言語活動を充実し、学びをコーディネートしながら豊かな造形的視点をもって対象をとらえることができるようにする。</b> ○ 表現内容や表現形式・技法・材料などを自己選択・自己決定したり、試行錯誤しながら創意工夫したりする場面を意図的に位置付ける。 ○ 児童生徒の作品の展示場所や飾り方を工夫したり、美術館等の施設や美術的な文化財を活用したりして、表現意欲と鑑賞の能力を高める。 ○ 事故防止のため、道具や薬品等の安全指導と保管に十分留意する。
評価の充実	○ 子ども一人一人が自分のよさを自覚し、意欲的・意図的に創造活動に取り組める評価を工夫する。	○ 〔共通事項〕の視点から活動の中でどのような資質や能力が身に付くかを明確にした評価計画を作成する。 ◎ <b>表現してきた過程を振り返り、自分のよさを自覚できる評価を工夫する。</b>

問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

※は参考文献等

授業づくりのポイント5 (「【参考資料】確かな学力の向上のために」P13)

思考の共有と吟味を促す学び合いをコーディネートする力の向上

◎ **表現及び鑑賞における言語活動を充実し、学びをコーディネートしながら豊かな造形的視点をもって対象をとらえることができるようにする。**

- ・ 表現したいテーマやイメージを図や言葉、文章で表して、それらを基にした説明し合う活動などを位置付ける。

- 例
- ① アイディアスケッチ等で構想を練ったり言葉や文章で思い付いたことを整理したりする。
  - ② アイディアスケッチや整理したものをもとに本時の学習内容に関する視点を与え、ペアやグループ、全体で話し合わせる。
  - ③ 友達の話から、自分では思い付かなかったこと、さらによりよい表現になるヒントを取り入れ、表現に生かす。

【言語活動の充実の工夫】

- アイディアスケッチなどに感じたことや考えなどを整理する。
- 話したり話し合ったりする。
- 説明し合ったり価値意識をもって批評し合ったりする。
- 討論や根拠をもって批評し合う。

※ 言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～

【小学校】【中学校】(文部科学省)

授業づくりのポイント6 (「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15)

学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎ **表現してきた過程を振り返り、自分のよさを自覚できる評価を工夫する。**

- ・ 自分の表し方の変化や友達の表現のよさをどのように取り入れたかなど、友達とかわりながら表現してきた過程を振り返ることができるようにする。

- 例
- 題材の終末では、材料や表現技法、完成した作品の振り返りだけでなく、試行錯誤する中で、自分の迷いや解決した喜び、感じ取った造形的なよさ等を記載できるような学習カード(「表現の足跡」「表現物語」等)を工夫する。

教科 体育・保健体育

	指導の重点	努力事項
指導計画の作成	○ 1 2年間を見通しながら領域構成と内容を踏まえ、バランスのとれた指導計画を作成し、基礎的・基本的な内容の確実な定着と体力の向上を図る。	◎ <b>学習内容が確実に定着できるように（2学年をひとまとまりにした、運動の取り上げ方を一層弾力化した）指導計画を作成する。</b> ○ 次のことを踏まえて、体力向上推進計画を作成・実践する。 ① 新体力テストの結果を踏まえ、自校の課題を明確にする。 ② 具体的で組織的な解決策を位置付ける。 小：運動身体づくりプログラムの共通実践、業間運動の工夫など 中：運動の特性に応じた補強運動の工夫、部活動の工夫など
指導の工夫	○ 主体的な学習を通して生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するよう指導方法の改善充実を図る。  ○ 保健・安全指導の充実を図り、事故を防止する。	【運動領域・体育分野】 ○ 子どもの発達の段階を考慮し、各運動が有する特性や魅力に応じて、基礎的な身体能力や知識等がバランスよく身に付くように、指導内容の整理と体系化を図る。 【保健領域・保健分野】 ○ 保健学習において、思考力・判断力等の育成に向けた多様な指導方法（専門性を有する教職員とのチームティーチングや課題学習など）を工夫する。 ○ 場の安全を確かめたりや用具の扱い方を指導したりするなどして事故防止に万全を期すとともに、事故発生時に十分な対応ができるよう連絡体制や救急体制を定期的に確認する。
評価の充実	○ 目標の実現状況を的確に把握し、指導の充実を図る。	◎ <b>1時間に評価する観点を1～2項目に絞り、単元全体で各観点をバランスよく評価できる評価計画を作成する。</b> ○ 適切な評価とつまずきのある子どもに対しての具体的な支援ができるように、目標を実現した「子どもの具体的な姿」を想定して指導と評価の一体化を図る。

※は参考文献等

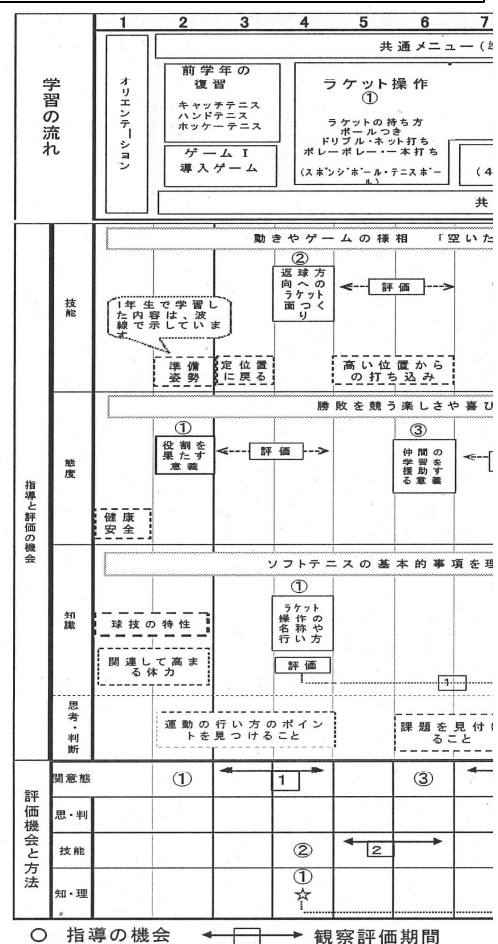
問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

授業づくりのポイント1（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P3）  
単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構成の工夫

- ◎ **学習内容が確実に定着できるように（2学年をひとまとまりにした、運動の取り上げ方を一層弾力化した）指導計画を作成する。**
- 2年間を大きな単元のように捉え、1年間で実施するのか、2年間に分けて実施するのかを検討し、指導内容を確実に積み上げることができる指導計画とする。
- ※ 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料  
【小学校】P71（平成23年11月国立教育政策研究所）

授業づくりのポイント6  
（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15）  
学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

- ◎ **1時間に評価する観点を1～2項目に絞り、単元全体で各観点をバランスよく評価できる評価計画を作成する。**
- 右図のような単元構成図を作成し、評価機会の検討をする。
- 例：【E球技】ネット型
- 学習指導要領に示された指導内容をバランスよく配置する。
  - 「運動への関心・意欲・態度」及び「運動の技能」は、定着に時間を要し、観察評価が中心となるため、指導の機会と観察評価期間を設けて評価するように位置付ける。
  - 「運動についての知識・理解」及び「運動についての思考・判断」は、その時間に評価するよう位置付ける。
- ※ 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料  
【中学校】P55（平成23年11月国立教育政策研究所）



教科 家庭

	指導の重点	努力事項
指導計画の作成	○ 家庭生活を総合的にとらえる視点から指導計画を改善する。	○ 子どもの実態を的確にとらえ、題材で育成する資質や能力を明らかにして、内容相互の関連を図った題材の構成や配列を工夫する。 ○ 学年の発展性や中学校技術・家庭科（家庭分野）との関連を考慮し、ガイダンス的な学習内容を設定するとともに、2年間を見通した大まかな流れ（ストーリー性）のある指導計画に改善する。
指導の工夫	○ 日常の生活との関連を図り、実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習を充実する。 ○ 安全指導、安全管理の徹底と学習環境の整備を行う。	◎ <b>身近な生活の課題を見付け、解決する過程を大切にしたい問題解決的な学習や実践的・体験的な学習活動を工夫して、自分の成長を自覚できるようにする。</b> ○ 子どもの興味・関心や地域、家庭の実態に応じて、題材構成や使用する教材を工夫したり、課題を選択して追究できるようにしたりするなど、学習内容の選択の幅を広げる。 ○ 家庭生活への関心を高め、習得した知識や技能を実際の生活に活用することにより、実践する喜びや家族と関わる意味やよさについて実感できるようにする。 ○ 安全管理・安全指導に努めるとともに、学習環境の計画的な整備・充実に努める。
評価の充実	○ 個のよさを生かし、伸ばす指導と評価の一体化を図る。	○ その時間のねらいや学習活動に照らして、重点化を図った評価規準を設定する。 ◎ <b>様々な評価方法の中から、その場面における子どもの学習状況を的確に評価できる方法を選択するとともに、毎時間の学習状況を継続的に把握しながら指導に生かす。</b>

※は参考文献等

問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

授業づくりのポイント1（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P3）  
単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構想の工夫

◎ **身近な生活の課題を見付け、解決する過程を大切にしたい問題解決的な学習や実践的・体験的な学習活動を工夫して、自分の成長を自覚できるようにする。**

・ 自ら課題を見だし、身に付けた知識や技能を活用し、自分や家族の生活を工夫する問題解決的な学習の場を設定する。

【例】【題材の構想に当たっての配慮点】

- ① 事前には、自分の生活を振り返らせ、生活に結び付いた課題意識を高める。
- ② 学習課題の設定では、家庭との連携を図り、自分自身の衣食住に関する実態調査から学習課題をつくる。
- ③ 課題解決では、生活を実感できるよう日常生活との関連を重視した実践的・体験的な学習を重視する。
- ④ 題材の終末では、家庭と連携し、実践する喜びを味わわせる。

授業づくりのポイント6（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15）  
学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎ **様々な評価方法の中から、その場面における子どもの学習状況を的確に評価できる方法を選択するとともに、毎時間の学習状況を継続的に把握しながら指導に生かす。**

・ 授業の各段階で、自分が考えたこと、見つけたこと、疑問に思ったこと、うまくいかなかったことやその原因などを継続的に振り返ることができるようにする。

【例】学習カードや実習カードの記入欄を工夫し、それぞれの活動の中で、自分の考えや気づき、グループでの話し合い、深まった考えなどを自分の言葉で記入できるようにする。

※ 言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【小学校版】  
（平成22年12月 文部科学省）

教科		技術・家庭	
	指導の重点	努力事項	
指導計画の作成	○ 社会において自立的に生きる基礎を培う観点から指導計画を改善する。	○ 小・中学校及び高等学校の関連教科の関連性を考慮し、3学年間を見通した指導計画を作成する。 ○ 自分の生活を振り返ったり、今後の生活を展望したりしながら、課題意識をもって主体的によりよい生活を工夫できる能力と態度の育成を重視した指導計画に改善する。 ○ 子どもの発達の段階を踏まえるなど学習の適時性を考慮し、家庭や社会とのつながりを重視した具体的な題材を工夫する。	
指導の工夫	○ 日常の生活との関連を図り、実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習を充実する。  ○ 事故防止のため、安全管理と安全指導を徹底する。	○ 実践的・体験的な学習活動の内容を吟味し、基本的な概念の理解を深める。 ◎ <b>授業や題材の中でどのような資質・能力を育むのかを明確にし、子どもが学習や実際の生活において自ら課題を見だし、解決を図ることができるよう問題解決的な学習を充実させる。</b> ○ 校内や家庭で認め合う場を設定することにより、実践する喜びを味わうことができるようにする。 ○ 学習環境の整備に努めるとともに、実習室の使用規定、機器類の使用に関する安全規則及び情報活用に関する運用規定等を適切に定め、安全管理や衛生管理及び事故防止の徹底を図る。	
評価の充実	○ 学習指導に生きる評価を確実に行う。	○ 評価の内容や方法を改善し、具体的な題材ごとの指導計画と評価規準を作成する。 ◎ <b>自己評価や相互評価を学習過程に効果的に位置付け、子どものよい点や進歩の状況を積極的にとらえ、主体的な学習を促す評価となるようにする。</b>	

※は参考文献等

問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

授業のポイント1（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P3）

単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構想の工夫

◎ **授業や題材の中でどのような資質・能力を育むのかを明確にし、子どもが学習や実際の生活において自ら課題を見だし、解決を図ることができるよう問題解決的な学習を充実させる。**

- ・ 生徒に「なぜ」「どのようにすれば」という問いを意識させ、その解決のための「計画、実践、反省・評価」という一連の学習活動を意図的計画的に位置付ける。

授業のポイント6（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15）

学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎ **自己評価や相互評価を学習過程に効果的に位置付け、子どものよい点や進歩の状況を積極的にとらえ、主体的な学習を促す評価となるようにする。**

- ・ 体験から感じ取ったことや気付いたことを自分の言葉でまとめ自己評価したり、整理・考察したことを説明し合って相互評価したりする。

**例** 技術分野では、製作図や回路図、フローチャート等を用いて考えさせ、考え出した解決策をめあてと照らして自己評価したり、友達と評価し合ったりできるようにする。

家庭分野では、調理のできばえやその理由を食品の調理性を基に考えまとめさせ、自己評価できるようにする。また、食事点検や住まいの安全点検などから、献立表や室内の安全マップなどの図表を用いて発表し合い、互いに評価し合えるようにする。

※ 言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校】P123～130  
(平成23年11月 国立教育政策研究所)

教科 外国語（英語）

	指導の重点	努力事項
指導計画の工夫	○ 各学年の目標を明確にし、子どもや地域の実態等に応じた言語活動が行えるよう指導計画を改善する。	○ 単元のねらいや内容等に応じて、学習指導要領に示された20の言語活動を位置付け、単元間の関連を図りながら、年間を通して4技能を総合的に育成する。 ○ 「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標を踏まえて、各単元でどのような力を身に付けさせたいかを明確にして、指導内容や活動などの配列を見直す。
指導の工夫	○ コミュニケーション能力の基礎を育成するために、子ども主体の授業を展開する。	○ 子どもが英語を使って活動する時間と機会を増やすために、教師が英語で授業を進められるよう英語力の向上を図る。 ◎ <b>即興的な言語活動の過程で、「どうすればできるようになるか」子どもに気付かせたり、考えさせたりする場面を意図的に設定して、自ら学びに向かう態度・姿勢を育成する。</b>
評価の充実	○ 目指す子どもの姿を明確にし、評価が指導につながるよう一体化を図る。	◎ <b>授業のねらいに即した視点で言語活動を振り返ることにより、身に付いた力や課題があるところに気付かせ、自律的学習者として主体的に学び続ける態度・姿勢を育成する。</b> ○ 筆記テストのみならず、パフォーマンス評価、活動の観察等、その場面における子どもの学習状況を的確に評価できる方法を選択し、それに基づく適切な支援を行う。

※は参考文献等

問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

授業づくりのポイント2（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P5）

ねらいからまとめまでの整合性を図り、子どもの思考を大切にしながら、目指す子どもの姿と手立てを明確にした授業の設計

◎ **即興的な言語活動の過程で、「どうすればできるようになるか」子どもに気付かせたり、考えさせたりする場面を意図的に設定して、自ら学びに向かう態度・姿勢を育成する。**

- ・ どの技能に焦点を当てるのかを明確にした上で、ねらいに合った言語活動を設定する。
- ・ 言語活動のモデルやフォーマットを提示し、見通しをもたせる。
- ・ どのような復習や練習をすればよいか気付かせたり、考えさせたりする。

- 例① 自分たちの活動のつまずきの要因と改善策を考えさせる。
- ② 教師があるペアやグループの活動が改善するよう指導している場面を示すことにより、自分たちが改善すべき点に気付かせる。
- ③ 模範的なペアやグループの取組のよい点に気付かせる。
- ・ 言語活動における子どもの誤りについて、ねらいに合った訂正の在り方を想定しておく。

【誤り訂正の例】

Emi: What color do you like?  
Shin: I'm like blue.  
Ms. Saito: Oh, you like blue.  
Shin: I'm.....

Shin, don't be afraid.  
I like red. How about you?  
Emi, ask him again.

I like blue.

What color do you like?



授業づくりのポイント6（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15）

学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎ **授業のねらいに即した視点で言語活動を振り返ることにより、身に付いた力や課題があるところに気付かせ、自律的学習者として主体的に学び続ける態度・姿勢を育成する。**

- ・ あらかじめ振り返る視点を明確にしておく。

例 一人一人の目標を設定する。  
ねらいを達成した具体的な姿を示しておく。

- ・ 子どもに「英語を使って何ができるようになったか」を実感させる。

例 ペアで話し合っ旅行したい場所を決めることができた。  
習っていない語の意味を推測して文章の概要を読み取ることができた。

- ・ 次時以降の学習が充実するように家庭学習等でできることを考えさせる。

例 今日の活動で使った英文をもう少し音読すれば、自然な会話ができると思う。  
○○さんが上手になったので、どんな学習をしたのか聞いてみたい。

※ 平成27年度「英語教育推進リーダー中央研修」DVD教材（平成28年7月 文部科学省）



## 外国語活動

### 1 学校や地域の実態に応じた指導計画の充実

- 小・中の連携や小学校同士の連携により、中学校外国語科への円滑な接続を図り、単元の位置付けや単元と単元との関連を踏まえた指導計画を作成する。
- ◎ **実施上の課題等の把握や指導計画作成は、全職員の共通理解のもと学校全体で取り組むとともに校内研修を充実させる。**

### 2 外国語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成

- 児童の興味・関心に応じて、他教科等で学習した内容を取り入れるなど、知的好奇心を喚起する教材を活用し、言語や文化について体験的に理解できるようにする。
- デジタル教材や音楽を活用して、内容や活動を工夫し、児童が自ら進んで聞いたり話したりして音声や表現に慣れ親しむようにする。
- ネイティブ・スピーカーや外国生活の経験者等の協力を得て、HRTや児童とのインタラクションを通して、言葉のもつ面白さや豊かさに気付かせ、異文化への興味・関心を高める。

### 3 「目標－指導(活動)－評価」の一体化

- 単元や授業のねらいに沿って、授業の中で求める児童の具体的な姿を明らかにして、評価規準とともに児童の学習状況を適切にとらえる評価の場面、方法を設定する。
- ◎ **自己評価や相互評価を活用し、児童の努力や意欲の向上等の変容を的確に見取る評価を行い、評価の結果に基づき適切な支援を行うなど指導の改善に生かす。**

※は参考文献等

#### 外国語活動の授業の充実のために

授業づくりのポイント1 (「【参考資料】確かな学力の向上のために」P3)

単元のねらいと子どもの実態等を踏まえた単元構想の工夫

- ◎ **実施上の課題等の把握や指導計画作成は、全職員の共通理解のもと学校全体で取り組むとともに校内研修を充実させる。**

- ・ 各種研修会やDVD教材を参考にして、単元のねらいに合ったALTとの協力の在り方やICTの活用の仕方を見直し、指導計画に位置付ける。

※ 平成27年度「英語教育推進リーダー中央研修」DVD教材(平成28年7月 文部科学省)

- ・ 活動を重ねるごとに子どものコミュニケーションへの意欲が高まっていく姿を想定し、チャンツ、ゲームなどの各活動が単元のねらいにつながるように指導計画に位置付ける。
- ・ 教師自身の英語力向上に努め、教室英語の使用を段階的・計画的に増やし、子どもが英語に触れる機会を確保していく。

【「ほめる」「はげます」教室英語の例】

You did a good job. (よく頑張りました。)

Fantastic. (すばらしい。) Close. (おいしい。)

That's right. (その通りです。)

Clear voice. (はっきりした声です。) Good luck. (頑張つて。)

You can say it in Japanese. (日本語で言っていていいですよ。)

Excellent!



※ Hi, friends! 指導書(文部科学省)

授業づくりのポイント6 (「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15)

学習内容を「振り返る活動」の充実

- ◎ **自己評価や相互評価を活用し、児童の努力や意欲の向上等の変容を的確に見取る評価を行い、評価の結果に基づき適切な支援を行うなど指導の改善に生かす。**

- ・ モデルを示したり、教室に掲示したりして、子どもが活動の目標を十分に理解して活動に取り組み、目標が達成できたかどうかを実感できるようにする。
- ・ 特に言語活動への参加意欲について、その変容を子ども同士で認め合う場を設定するとともに、教師が的確に見取り、称賛の声かけをする。
- ・ 「もっとやってみたいこと」「もっと知りたいこと」を引き出し、次の単元や中学校外国語科の学習への意欲を喚起する。

# 道 徳

## 1 重点目標を明確にした全体計画と各教科等との関連を考慮した指導計画の改善

- 道徳教育の重点目標や各学年の指導の重点を明確にした全体計画を作成する。
- 各教科等における道徳教育に関わる全体計画の別葉を作成し、活用を図る。
- 年間指導計画は、各時間の指導の概要が分かるように工夫し、学級の指導計画は、子どもの実態をもとに精選した内容となるように工夫する。

## 2 実効ある指導体制づくりと道徳の時間の指導方法の工夫

- 保護者や地域の人々の参加や協力を得るとともに、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を確立し、学校全体の授業力を高めるようにする。
- ◎ **問題解決的な学習や体験的な活動など、多様な指導方法の工夫を通して、子どもの心に響く多様な授業展開を工夫する。**
- 魅力的な資料や教具の開発を行うとともに、「ふくしま道徳教育資料集」の積極的かつ実態に応じた柔軟な活用を図る。
- 評価に当たってはよい点や成長の状況などを積極的に認め、勇気づけるとともに、指導計画や指導方法の改善に生かす。

## 3 開かれた道徳教育の推進

- 「道徳の時間」の授業の公開等を積極的に実施し、学校間や異校種間の連携を強化する。
- 保護者や地域住民の理解と協力を得ながら、双方向の連携の工夫をする。

※は参考資料等

### 道徳の時間の充実のために

#### 道徳の時間の指導方法の工夫

- ◎ **問題解決的な学習や体験的な活動など、多様な指導方法の工夫を通して、子どもの心に響く多様な授業展開を工夫する。**

#### 【問題解決的な学習のねらいとは？】

道徳の時間における問題解決的な学習とは、子ども一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。

#### 【問題解決的な学習の指導上の留意点は？】

- ・ 多面的・多角的な思考を促す「問い」が設定されているか。
- ・ 上記「問い」の設定を可能とする教材が選択されているか。
- ・ 議論し、探究するプロセスが重視されているか。

#### 【問題解決的な道徳の時間を構想するには？】（授業展開を構想する上での一例）

##### ①道徳的価値の想起

- ・ 個人的な経験や具体的な事例から道徳的価値を考える。

#### 【教師の主な発問】

「ここでは何が問題になっていますか」

「何と何で迷っていますか」

##### ②道徳的な問題の状況の分析

- ・ 資料を読んで、道徳的問題の状況を分析する。

##### ③複数の解決策の構想

- ・ 問題場面に対し、様々な解決策を構想する。

「主人公はどうしたらよいだろう」

「自分ならどうしただろう」

##### ④シミュレーション

- ・ 考えた解決策を身近な問題に適用し、自分の考えを再考する。

##### ⑤まとめ

- ・ 今後の生活でどのように生かせるかを問い、価値の内面化から道徳的実践へと促す。

※ 「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について【別紙1】

（平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議より）

## 特別活動

### 1 自校の教育課題解決を目指した指導計画の改善

- 学校や地域社会の実態、子どもの発達段階を踏まえ、各活動・学校行事を通して育てたい態度や能力を明確にした創意ある指導計画を作成する。

### 2 自主的、実践的な活動を充実させる指導内容の重点化と指導方法の改善

- 互いのよさや可能性を認め合う活動を積極的に取り入れ、一人一人が自己肯定感・自己有用感をもてるよう、全教師の指導体制を整えて指導方法の改善を図る。

#### 【学級活動】

- ◎ **話し合い活動を充実させ、(1)では学級としての意見をまとめる集団決定、(2)及び中学校(3)では自己の問題の解決方法を決める自己決定ができるようにする。**

#### 【児童会・生徒会活動】

- 協力的な指導体制の充実を図り、異年齢集団の特質を生かし、自発的、自治的な活動を助長する指導・援助やリーダーシップの育成に努める。

#### 【クラブ活動(小)】

- 子どもの興味・関心を十分に踏まえ、学校、地域の実態を考慮しつつ、自発的、自治的に企画、運営できるよう適切な指導を行う。

#### 【学校行事】

- 行事のねらいや特質に応じて精選化を図るとともに、多様な人々との交流体験や文化的な体験(小)、職場体験(中)等を重視し、自主的・実践的な活動が展開できるように工夫する。

### 3 特別活動の特質を踏まえた評価の工夫

- ◎ **活動の過程で一人一人を見取り、よさや可能性を積極的に認めるとともに、多様な振り返る活動により集団や自己の変容に気付かせ、子どもの自信や次の活動への意欲を高める。**

※は参考文献等

#### 特別活動の充実のために

##### 「話し合い活動」の充実

- ◎ **話し合い活動を充実させ、(1)では学級としての意見をまとめる集団決定、(2)及び中学校(3)では自己の問題の解決方法を決める自己決定ができるようにする。**

- ・ 学級活動(1)では、学級活動委員(計画委員)の司会、記録等の役割分担、活動の計画・立案等により自分たちの活動であることへの自覚と責任をもたせるとともに、アンケートや事前調査等により子ども一人一人の問題意識や改善意欲を高める。
- ・ 学級活動(2)及び中学校(3)の題材について、子どもが切実感をもって話し合い、具体的な改善策を伴う自己決定ができるように資料を提示する。

- 【例】
- \* ゲストティーチャーからの心に響く話
  - \* 学級担任や学級活動委員会(計画委員会)による実態調査等の結果

- ・ 議題や題材について、事前に子どもが書いた考えに、教師が朱書きを入れる。

##### 【期待できる効果】

- 【例】
- \* 子どもが考えをまとめ、発言することへの自信がもてる。
  - \* 司会役への実態を踏まえた助言により話し合いが円滑に進む。

※ 楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)(平成26年7月 国立教育政策研究所)

※ 学級・学校文化を創る特別活動(中学校編)(平成28年3月 国立教育政策研究所)

- ・ 「提案理由や活動テーマを大切にすること」や「話し合いの形態を工夫すること」「安易に多数決で決めないこと」など、板書や掲示物を利用して、子ども一人一人が話し合いの仕方やルールを理解し、発言しやすい状況や雰囲気をつくる。



##### 「振り返る活動」の充実

- ◎ **活動の過程で一人一人を見取り、よさや可能性を積極的に認めるとともに、多様な振り返る活動により集団や自己の変容に気付かせ、子どもの自信や次の活動への意欲を高める。**

- ・ 体験発表会、新聞による紙上発表、礼状作成など、多様な方法で活動を振り返り、活動後の変容に気付かせるとともに、何が変容につながったのかについて考えさせたり、話し合わせたりする。
- ・ 活動の目的を明確にした上で実施し、育てたい資質や能力に即した視点で振り返らせ、教師が積極的によさを認め、子ども同士でも認め合う場を設定する。

# 総合的な学習の時間

## 1 地域や学校、子どもの実態等に応じた特色ある指導計画の作成

- 全体計画及び年間指導計画は、カリキュラムマネジメントの視点から、各学校における教科横断的な目標、育みたい資質や能力、学習内容、学習活動や評価等を明確にして地域や子どもの実態に即して作成するとともに、自己点検・自己評価を行い改善を図る。
- ふるさとにかかわる単元を開発したり、外部の教育資源を積極的に取り入れたりしながら、多様で豊かな体験活動を各学校の実態に応じて指導計画に位置付ける。

## 2 創意工夫を生かした探究的な学習活動の展開

- 探究的な学習が発展的に繰り返し展開できるように、「課題の設定」を重視する。その際、子どもの発想を大切にするとともに、学習対象とのかかわり方や出合わせ方を工夫するなど、教師の働きかけを工夫する。
- ◎ **問題の解決や探究的な学習の過程においては、協同的に学ぶことの3つの価値を踏まえて、他者と協同して課題を解決する学習活動を設定する。**  
＜協同的に学ぶことの3つの価値＞
  - ① 多様な情報の収集につながる。
  - ② 異なる視点から検討できる。
  - ③ 個人の学習の質を高め、同時に集団の質も高める。

## 3 子どもの主体的な学習を支える評価の工夫

- ◎ **子どもが自己の高まりや成長を実感したり、今まで気付かなかった自分のよさや問題点に気付いたりできる自己評価や相互評価等の方法を工夫する。**

※は参考文献等

### 問題解決的な学習を中軸とした授業の充実のために

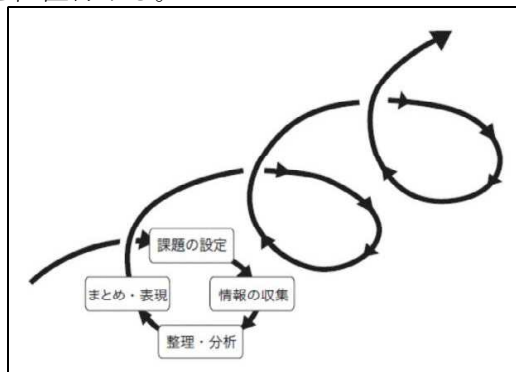
#### 思考の共有と吟味を促す学び合いの充実

- ◎ **問題の解決や探究的な学習の過程においては、協同的に学ぶことの3つの価値を踏まえて、他者と協同して課題を解決する学習活動を設定する。**

- ・ 探究的な学習のプロセスとして学び合いの活動を位置付ける。

- 例 ① 情報収集、情報の整理・分析により自己の考えをもたせる。
- ② 学習形態を工夫して、学び合いの機会を設定する。ここでは、情報の対比を通して結論の内容を深められるようにする。
- ③ 根拠を明確にして説得力のある説明ができるようにする。
- ④ 新たな課題を設定し、次の探究につなげる。

教師は、「整理・分析」「まとめ・表現」を重視し、次の「課題の設定」に発展させる。



※ 学習指導要領解説 総合的な学習の時間編【小・中学校】P12～17（平成20年 文部科学省）

同 【小学校】P83～93（平成20年 文部科学省）

同 【中学校】P81～91（平成28年 文部科学省）

※ 今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開【小学校編・中学校編】P17～47

（平成22年 文部科学省）

#### 「振り返り活動」の充実

- ◎ **子どもが自己の高まりや成長を実感したり、今まで気付かなかった自分のよさや問題点に気付いたりできる自己評価や相互評価等の方法を工夫する。**

- ・ 「まとめ・表現」の段階において、伝えたり、考えをまとめたりする場を設定する。

- 例 振り返りカード、地域住民への報告、プレゼンテーション、パンフレットなどによる表現する場を設け、学習前と学習後の変化を振り返らせる。その際、知識、技能、経験、思考など、表現する内容の観点を示して、多様な面から自己の変容を自覚できるようにする。

## 4 各種教育の指導の重点

### 生徒指導

※は参考資料等

#### 1 自校の実態に応じた指導計画の作成と指導体制の確立

- 自校の実態を踏まえて、目指す子ども像や指導理念、共通実践事項等を明らかにして、**自己肯定感**を高めることや**社会性の育成**等の課題解決のための具体的な指導計画に改善する。
- 教職員の役割分担を明確にして、一貫した指導ができるようにする。

#### 2 教育活動全体を通じた積極的な生徒指導の推進

- 全教育活動を通して、自己決定の場や自己存在感を味わうことができる場を設定し、**生徒指導の機能**を発揮できるようにする。
- 子どもの思いや心情をとらえ、人間的な触れ合いのある**温かい学級の雰囲気**を醸成する。
- 地域の大人や異年齢の子どもとの交流、集団宿泊活動や奉仕体験活動、自然体験活動、文化芸術活動等の**豊かな体験活動**を通して、**規範意識や思いやりなどを育成**するとともに、自己を生かす能力の育成に努める。
- 生徒指導委員会等の校内組織を生かし、**教員間の連携強化、全教職員の共通理解、同歩調の指導**に努める。

#### 3 教育相談体制の充実

- 子どもとの日常的な触れ合いを通して、**信頼関係**を築き、個々の教員がカウンセリングマインドをもって指導に当たるようにする。
- **スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの活用**を図り、教員間の連携を深め、チームとなって個に応じた支援ができるように、**校内のコーディネート力**を高める。
- 子ども**の心のケアに留意**し、教育相談の知識や技能を高めるために、関係機関等との連携を図る。

#### 4 不登校・いじめ等の未然防止と迅速な対応

- 日常の観察や諸調査による実態把握に努め、**問題行動の未然防止**や**早期対応・早期解決**に努めるとともに、重大事態等発生時の**緊急体制**を確立する。
- 「いじめはどの子にも、どの学校でも起こりうるもの」の認識をもち、**学校いじめ防止基本方針**を基に未然防止、早期発見・早期対応に努める。
- ◎ 「**新たな不登校を出さない**」ための方策について、全職員で**共通理解・共通実践**をする。過去に不登校傾向を示した子どもが連続して欠席した場合には、不登校に対する**初期対応の体制**を整える。

※「不登校対応資料Vol.5 豊かな学校生活のために～チームで切れ目ない援助を～」(平成29年2月福島県教育委員会)



- 携帯電話等の取扱いについて学校における指導方針を明確にし、SNS等によるトラブルや性被害・性犯罪被害を防ぐため、発達の段階に応じた**情報モラルの指導**の充実を図るとともに、教職員の研修と**保護者への啓発**を意図的・計画的に行う。
- **家庭や地域、近隣校、関係機関との連携**を図り、地域ぐるみの補導活動を通して、**問題行動の未然防止、早期解決**に努める。

## 1 学校や子どもの現状を把握し、目標と課題を明確にした指導計画の作成・改善

- ◎ キャリア教育における**基礎的・汎用的能力**を育成する視点について研修を重ね、全体計画等において各種教育活動との関連を明らかにし、教育活動全体においてより活用しやすくするよう**指導計画の具体化、重点化**等を行い、目指すべき子どもの姿を明確にする。

\* キャリア教育における基礎的・汎用的能力  
 ○ 人間関係形成・社会形成能力      ○ 自己理解・自己管理能力  
 ○ 課題対応能力                              ○ キャリアプランニング能力

- 各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等をキャリア教育の視点でつなぎ、子どもの変容を**見取り**、学校全体としての取組を**点検**して、機能的・系統的な全体計画や年間指導計画に改善する。

## 2 キャリア教育の推進組織・体制を確立し、共通理解に立った指導

- 担当者の役割を明確にし、校種間・各教科等をつないで系統的に取り組んだり、教科部会や生徒指導部会等と連携したりするなど、**9年間を見通し学校全体で取り組む推進体制**を整える。
- ガイダンスを計画的、組織的に実施したり、普段から意識的に子どもに言葉かけをしたりするなど、子どもとのコミュニケーションを図るようにする。
- 個々のキャリア発達を踏まえ、教師が「語る」、子どもに「語らせる」、子どもたちに「語り合わせる」ことを大切にした指導を行い、子どもが自分の長所や可能性に気づき、生き方について主体的に考えられるようにする。



※ 『語る』『語らせる』『語り合わせる』で変える! キャリア教育  
 (平成28年3月 国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導教育センター)

- 進路指導に当たっては、記録の速やかな作成、保管など、情報の管理を徹底するとともに、子どもが自らの生き方を考え、目的意識をもって自己実現を図っていくように、各学校が教育活動全体を通して計画的・組織的・継続的に推進していく。(中)

## 3 学校、家庭、地域社会や関係機関等との連携の強化

- 子ども一人一人の発達の状況を的確に把握し、それに対するきめ細かな支援を行うため、子どもの「将来の夢」や「目標」などキャリア発達に対する情報を、次の学年や学校に確実に引き継いでいけるようにする。
- 家庭や地域、学校において、様々な関わりの中から、**将来の夢や希望**を育むとともに、**集団生活に参加しようとする意欲・態度**を養う。(小)
- 職場体験や地域の行事への参加などを通して、**地域・社会の一員としての自覚**を得させるとともに、**将来の生き方、進路**を希望をもって考えさせる契機とさせる。(中)
- 進路情報の効果的な活用のために、小学校、中学校、高等学校及び職業指導関係機関と計画的に連携を図る。

※ 文部科学省トップページ「キャリア教育」[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/career/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/index.htm)

## 1 学校図書館の活用を図った指導計画の改善

- 各教科等やその他の教育活動と学校図書館との関連を密にし、活用のねらいや方法を明らかにして、**教育活動の効果を高める指導計画**に改善する。
- 子どもが、各教科や総合的な学習の時間等において**年間を通して意図的・計画的**に学校図書館を利用し、主体的、探究的に**学習活動や読書活動**に取り組むことができるようにする。
- 図書の読み聞かせやブックトーク、必読書や推薦図書を広めるなど、子ども及び学校の実態に応じた**読書活動充実のための取組**を推進する。

## 2 学校図書館の機能や役割を生かす整備充実

- ◎ **司書教諭等**を中心に、学校全体で**協力体制**をとりながら、子どもや教員のニーズに応じた図書の充実を図ったり、情報機器を活用したりして**魅力ある図書環境**をつくり、**学習・情報センター、読書センター**としての機能活用を図る。
- 利用時間や方法、親しみのもてる場づくり等を工夫することで、子どもが図書と親しむ時間を過ごしたり、年齢の異なる様々な人々と図書を介した触れ合いをもったりすることができるような子どもの**居場所**としての機能にも配慮した活用を図る。
- 子ども及び学校の実態に応じた読書活動充実のために、家庭との連携を図るとともに**公共図書館や地域ボランティア等との連携**を推進する。

※ 第三次 福島県子ども読書活動推進計画（平成27年3月 福島県教育委員会）

## 1 情報化に対応できる資質や能力を育成する情報教育の体系的な推進

- 学校教育全体において情報教育を推進するために、教育の情報化を推進する組織を位置付け、計画的に研修を行うなど**校内の指導体制を充実**する。
- ◎ 情報活用能力を身に付けさせるために、各教科等との関連を図りながら、**発達の段階と系統性を踏まえた指導内容や方法**を明らかにするとともに、次の**3観点・8要素**をバランスよく育成する。

### 【情報教育の3観点・8要素】

① 情報活用の実践力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題や目的に応じた情報手段の適切な活用</li> <li>・ 必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造</li> <li>・ 受け手の状況などを踏まえた発信・伝達</li> </ul>
② 情報の科学的な理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解</li> <li>・ 情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解</li> </ul>
③ 情報社会に参画する態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響の理解</li> <li>・ 情報モラルの必要性や情報に対する責任の思考</li> <li>・ 望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度</li> </ul>

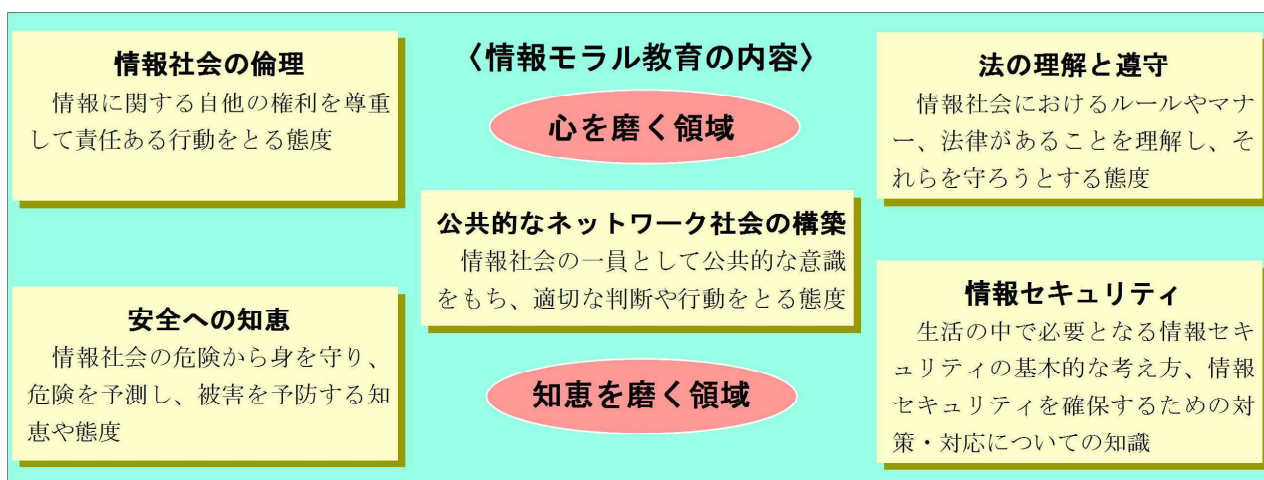
※ 教育の情報化に関する手引き（平成22年10月 文部科学省）

## 2 情報活用能力を高める指導の工夫

- 必要な情報を主体的に選択・活用する能力を育成するために、各教科等の学習において、**目的に応じた情報手段を効果的に活用**する。
- 各教科等においては、児童生徒の学習意欲を高め、理解を助ける**コンピュータ等の情報手段の活用場面や活用方法を工夫**する。
- **実際の体験や課題解決などを通して**、次の能力を身に付けさせる。
  - ・ 情報を収集したり選択したりする力
  - ・ 情報を比較・吟味して整理する力
  - ・ 複数の情報を関連付けたり組み合わせたりして新たな情報を創造する力

## 3 情報モラル教育の充実

- **情報モラル教育**を道徳や各教科等など教育課程に位置付け、子どもの発達段階に応じて**2領域5分野の内容**をもれなく扱い、**情報社会での行動に責任**をもたせ、**適正な活動を行うための基**になる考え方と態度を身に付けさせる。



※ 情報モラル教育 実践ガイドンス（平成23年3月 国立教育政策研究所）

※ 情報モラル指導モデルカリキュラム表（平成19年5月 文部科学省）



# 環境教育

※は参考文献等

## 1 総合的・系統的な指導計画の作成

- 環境教育の重要性を再認識し、自然環境の学習や地球温暖化防止の取組など、環境の保全に配慮した望ましい働きかけができるよう、**教職員の共通理解と協力体制づくり**を図りながら、組織的・計画的に展開する。
- 環境問題について主体的に関わる態度や実践力を育成するため、自然体験や地球温暖化防止への取組等が行えるよう、子どもの発達の段階や実態を踏まえてねらいを明確にし、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間などを相互に**関連を図った計画**を作成する。
- **校種間の一貫性**に配慮し、それぞれの段階におけるねらいを踏まえ、子どもの発達に応じて推進できるようにする。



※ 環境教育指導資料【幼稚園・小学校編】（平成26年10月 国立教育政策研究所）

※ 環境教育指導資料【中学校編】（平成28年12月 国立教育政策研究所）

## 2 子どもが主体的に考え判断し行動できる資質や能力を高める指導方法の工夫・改善

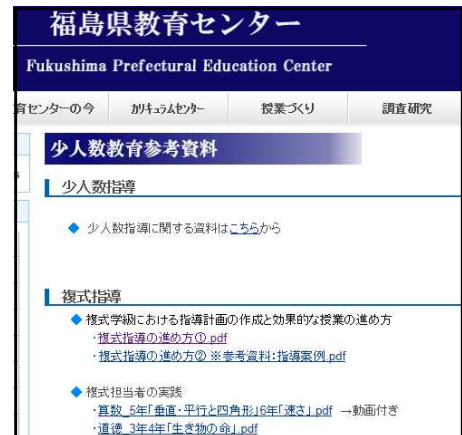
- ◎ 地域の自然を大切にする心情や態度を育てるため、**環境教育関連の各種コンクール等を活用**して地域の自然を意識させる工夫をしながら**自然環境等の教材化**を積極的に図る。また、自分たちの生活や地域から環境にかかわる問題の解決の方策を考えさせるなど、実践的な活動を推進する。
- 生活の中で省エネルギー、省資源を日常化する心情や態度を育てるため、地球環境問題と地球温暖化防止の意義や循環型社会の形成に向けた再生可能エネルギー資源の利用について理解を促進する。また、学校の実態に応じて**地球温暖化防止活動**（福島議定書、エコチャレンジへの参加等）を推進する。
- **家庭・地域・社会教育施設・民間団体等との連携**を図り、学んだことが家庭や地域社会の中で積極的に活用されたり、学びが実感を伴ったものに深化したりするよう展開する。

## 1 子どもの実態や学校の特色及び地域の特性を生かした指導計画の改善

- 子どもの実態や学校、地域の特性と実態を踏まえ、社会性や主体性の伸長及び思考力・判断力・表現力の育成を重視した指導計画に改善する。
- 地域素材の教材化や人材活用、他学年や他校との交流学习等を工夫し、**少人数のよさを生かした弾力的な指導**ができるような指導計画にする。

## 2 子ども一人一人の特性に応じた授業等の充実

- 教師のコーディネートによる集団思考の場や子ども主体の話合い活動、発表等を積極的に取り入れた授業を展開する。
- 少人数学級の特性を生かして、**体験的な学習や問題解決的な学習**を積極的に取り入れ、学ぶ楽しさや成就感などを味わわせる中で、子どもが主体的に問題を解決していく力を育てるための学習過程を工夫する。
- ◎ 複式学級の学習指導においては、**直接指導と間接指導の効果的な指導**を工夫するとともに、**教具・教材の整備やICTの活用、教室内の環境構成**などを工夫して指導する。



※ 少人数教育参考資料（福島県教育センターHP）

## 3 子ども一人一人のよさをとらえ自己実現を図る評価の工夫

- 子ども一人一人の学習状況を的確に把握し、**個に応じたきめ細かな指導**に生かす。
- 様々な教育活動場面での記録を累積し、子ども一人一人のよさが学年を越えて発揮できるように活用する。

## 国際理解教育

### 1 学校や地域の実態等に応じた指導計画の改善

- 学校や地域の実態に応じて、国際理解教育に関する**指導のねらい**と**各教科等との関連**を図るとともに、JICA二本松、国際交流協会などの関係機関及び人材を有効に活用する。
- 総合的な学習の時間で行う場合には、英語のスキル向上を目指した活動にならないように、適切な指導計画を作成し実施する。

### 2 我が国の伝統と文化を踏まえ、異なる文化や価値観を理解し、尊重する態度の育成

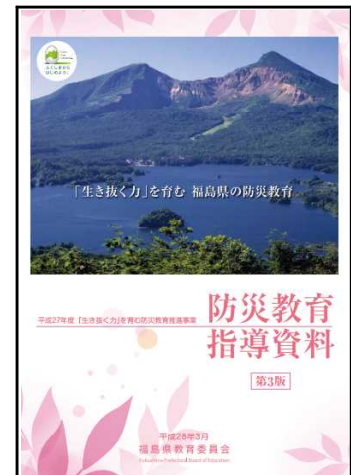
- ◎ 教育活動全体を通して、子どもが**日本人としての誇り**をもち、**我が国や郷土の伝統と文化**を理解し、尊重する態度の育成に努める。
- 各教科等の授業において、**表現活動**や**話し合い活動**を意図的・計画的に設定し、相手の立場を尊重しながら、考えや意思を伝える態度の育成に努める。
- 世界と我が国のかかわりに対する関心を深め、異なる文化や価値観をもつ人々を理解し、尊重する態度の育成に努める。

### 3 交流の場や機会の拡充による相互理解の深化

- 外国語指導助手や地域に在住する諸外国の人々と直接触れ合う多様な交流活動及びICTの活用等により、自分の考えを明確にしながら情報を得たり、発信したりして、相互理解を深めようとする意欲と態度を育てる。
- 様々な外国語に触れたり、外国の生活や文化に慣れ親しんだりするような**体験的な学習**を積極的に取り入れる。

## 1 教育課程の全体構造を踏まえた指導計画の充実

- **各教科等との関連**を図り、防災教育に関する事項を学校安全計画や各種指導計画に確実に位置付け、教育活動全体を通じて防災教育に取り組む体制を整備する。
  - ※ 防災教育指導資料第3版  
(平成28年3月 福島県教育委員会) P58～65
- 子どもの防災意識や対応力の実態、保護者・地域の理解や協力体制の実態を踏まえ、関係機関等との連携を図った「学校安全計画」「危険等発生時対処要領」の改善に努める。
  - ※ 防災教育指導資料第3版  
(平成28年3月 福島県教育委員会) P135～149



## 2 自らの命を守り抜くために主体的に考え判断し行動する態度及び能力の育成

- ◎ 各教科等において、県教委発行の**防災教育指導資料等**を活用しながら、災害発生のメカニズム、地域の自然環境や過去の災害などの災害に関する基本的な知識を習得させ、防災に対する意識を高めるための学習活動を実践する。
  - ※ 防災教育指導資料第1版～第3版 (福島県教育委員会)
  - ※ 青少年赤十字防災教育プログラム まもるいのち ひろめるぼうさい (平成27年 日本赤十字社)
- 地域との連携を図りながら、時間や場所、状況等地域や学校の実状に応じた避難訓練を実施したり地域防災マップづくりをしたりすることを通して、主体的に考え判断し行動する態度や能力を育成する。
- 「防災個人カード」等、具体的な資料を活用して、地域における避難の仕方、家族との集合場所や連絡方法等、**学校以外**で災害に遭った場合を想定した場を設定し実践する。

## 3 安全で安心な社会づくりに貢献する意識の醸成

- 地域における自分の役割を理解し行動できるようにするために、防災訓練、防災学習、避難所設営等の**実践的な活動**を、地域の人々や自治体と合同で行うように努める。
- 地域を知る学習活動、地域の人々との幅広い交流やボランティア活動などを通して地域のよさに気付かせながら、**自助・共助・公助**の視点にたった社会貢献や社会参加の意識を高められるようにする。

## 1 保健学習・保健指導の充実を図り、健康を保持増進するための実践力の育成【保健】

- ◎ **保健学習**においては習得した知識を活用する学習活動を積極的に取り入れる、**保健指導**においては集団での話し合いを通して個人の目標を自己決定する学習を設定するなど、**各教科等**の**特質に応じた指導の工夫**に努める。
- 「性に関する指導」については、**県版「性に関する指導の手引」**を活用し、子どもの発達の段階や実態に応じて、組織的、計画的に指導する。  
※ 性に関する指導の手引き（平成24年9月 福島県教育委員会）
- 「**薬物乱用防止教室**」については、関係機関の専門家や学校薬剤師との連携を図り、**中学校**においては学校保健計画に**年1回以上開催**するよう位置付ける。小学校においても、地域の実情に応じて開催に努める。



## 2 健康相談・個別指導の充実【保健】

- 子どもの健康課題（特に**肥満傾向の解消**）に向けて教職員間の共通理解を図り、養護教諭と担任等が相互に連携して、組織的に健康相談・個別指導を行い、**個に応じたきめ細かな指導**の充実に努める。
- 県の健康課題（「肥満」「う歯」「こころ・性」）及び自校や地域の健康課題については、家庭、関係機関及び学校医等の専門家、地域との連携を図り、学校保健委員会等の保健組織活動を活用して健康課題解決に努める。

## 3 危険を予測し、回避する能力の育成【安全】

- 学校生活における事件・事故、交通事故や自然災害の原因等について分析し、**身の回りの危険を予測し、回避するための適切な行動**がとれるよう、具体的な安全対応策を計画に組み入れる。
- 学校の実情に応じ、**関係機関等と連携した安全教室や防災訓練等を実施**するなど、地域や関係機関との連携による学校安全体制の強化及び防災教育の充実に努める。

## 4 「食べる力」「感謝の心」「郷土愛」の育成【食育・学校給食】

- 子どもの食育の課題を把握し、食育推進コーディネーターを中心に教職員の役割を明確にするとともに、**家庭や地域との連携を図った食育の推進体制**を確立する。
- **栄養教諭・学校栄養職員等の専門性**を授業等に積極的に取り入れ、実践事例集を活用し、食に関する指導の充実を図る。また、食に関わる体験活動やP T A事業（給食試食会・講演会等）を行い、家庭や地域、関係機関との連携に努める。
- 給食の時間については、地場産物の活用など**学校給食を生きた教材**として活用し、教科等における指導内容との関連を図りながら、年間を通じて計画的、継続的に指導する。

# 放射線教育

※は参考資料等

## 1 学校や地域の実状及び児童生徒の実態に応じた指導計画及び指導内容の工夫と実践

- 本県における放射線教育の重要性を踏まえ、学校安全計画や学校保健計画及び各教科等の指導計画等に指導内容を位置付けるよう努める。
- 子どもの発達段階を考慮し、道徳や各教科等の年間指導計画に位置づけ、確実な取り組みになるよう配慮する。特に、学級活動（2）の題材として、**時数を確保して実践する。**
- 各学校の取組を**家庭や地域へ向け積極的に発信し、放射線教育に対する理解**を促し、連携を図った指導となるよう工夫する。

## 2 放射線等の基礎的な性質について理解させ、自ら考え、判断する力を育むための指導方法の工夫

- ◎ 県教委発行の放射線等に関する指導資料及び国や県、市町村教育委員会作成の資料を有効に活用して、客観的な立場から指導する。
- 放射線の利用や影響について、科学的な根拠を基に考えたり、判断したりする態度の育成に努める。中学校卒業時点で、他者に科学的な根拠を基に**情報発信できる力**を身に付けさせるよう努める。
- 研修の機会等を活用して、**教師自身が放射線に関する基礎的な知識**を身に付けるようにする。

※県教委発行 放射線指導資料(右)  
※県教委作成 学習教材DVD(左)



## 3 放射線から身を守り、健康で安全な生活を送ろうとする意欲と態度の育成

- 放射性物質や放射線の性質を理解させ、子どもに**適切に判断し行動できる力**を身に付けさせるために、発達段階に応じた系統的な指導を行う。
- **放射性物質を体に取り込まないようにするための方法**や**放射線から身を守る方法**を確実に身に付けさせるとともに、事故が起きた場合の放射性物質に対する**防護や避難の仕方**について理解させる。

## 1 人権を尊重する意識を高める教育の推進

- 人権教育の**具体的目標を設定**するとともに、各教科等との関係を位置付けた計画を作成し、教育活動全体を通じて**人権意識を高める効果的な指導**を行うよう努める。
- 人権教育に関わる内容を明確にし、全ての教職員が学校の教育活動全体を通じて働きかけるとともに、それぞれの教育活動の特質を生かした**指導方法や内容を工夫**する。
- 教職員自身が人権尊重の理念を十分に認識して具体的に指導できるよう**研修の充実**を図る。

## 2 人権尊重の感覚を育成する教育活動の展開

- ◎ 日々の教育活動において、自分の気持ちを伝え、**他者の気持ちを受け止める態度の奨励や支援**を充実させ、互いを尊重し合い、認め合う支持的風土の醸成に努める。
- 児童生徒の発達段階を踏まえ、自主性を尊重したり体験を取り入れたりするなどの指導方法の工夫を行うことにより、一人一人のよさや可能性を生かし伸ばすとともに相手もかけがえのない一人として認めることができる**望ましい集団づくり**に努める。
- いじめは**人権に関わる重大な問題**であり、人間として絶対に許されないという自覚を教師自身もつとともに、児童生徒一人一人の自覚を促す指導を充実する。

## 3 指導の効果を高める評価の工夫

- **人権尊重の視点**から、学校教育における諸活動を**評価する機会**を設けるとともに、**保護者や地域からの評価**を取り入れる工夫をし、指導方法・内容や時期等の改善に生かす。

※ 「人権教育の指導方法等の在り方について [第三次とりまとめ]」

(平成20年3月 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議 (文部科学省設置))

※ 「人権教育に関する特色ある実践事例」(文部科学省HP)

# 幼稚園教育

子ども一人一人の健全な心身の基礎を培う幼稚園教育

## 幼稚園教育の指導指針

うつくしまっ子  
幼児教育振興ビジョン  
～つながる幼児教育～

生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼稚園教育

### 健康

- ・体を十分に動かす遊びの工夫
- ・楽しく食べるための雰囲気づくり
- ・安全に生活できる施設・設備の工夫

### 人間関係

- ・自分の力で行動する遊びの設定
- ・身近な人とのかかわりを深める教師のかかわり

### 環境

- ・身近な環境にかかわる機会の充実
- ・物の性質や数量、文字などに興味をもたせる場の設定

### 言葉

- ・自分の気持ちを言葉で表現させる教師のかかわり
- ・想像する楽しさを味わわせる読み聞かせ等の充実

### 表現

- ・豊かな感性を養う直接的な活動の充実
- ・感じたこと、考えたことを様々な方法で表す遊びの充実

子ども一人一人が輝く温かい学級集団づくり ～集団活動の充実～

## 1 子どもが環境に主体的にかかわり、発達の各時期にふさわしい生活が展開できるような長期的・短期的に見通しをもった指導計画の作成・改善

- 子ども一人一人の発達の実情、幼稚園及び地域の実態に応じ、長期的な見通しをもった特色ある指導計画を作成するとともに、短期的な計画との往還を意識して改善を図る。
- 家庭、地域社会、小学校、保育所、認定こども園等と連携、協力しながら生活及び発達や学びの連続性を踏まえた教育ができるよう指導計画を工夫する。

## 2 一人一人の活動の場面に応じて、教師が様々な役割を果たし、子どもの主体的な活動が確保されるような保育の展開

- ◎ 活動の場を工夫しながら体を動かす気持ちよさを体験させ、自ら体を動かそうとする意欲を育てる。また、一日あたりの体を動かす時間が合計で**60分間確保**できるように努める。
- **人的環境**としての教師の役割を認識し、教師自身の環境へのかかわり方を工夫することを通して「遊びを中心とした総合的な指導」を充実させる。
- 特別な支援が必要な子どもや発達に心配のある子どもの指導に当たっては、関係機関と連携しながら「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」等を作成するなどして、実態に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的・計画的に行う。

## 3 子どもの育ちつつある面やよさに目を向けた評価の工夫・活用

- 子ども一人一人の発達の課題に即した行動のもつ意味を理解し、計画の見直しを図ることにより、環境の再構成や次の手立てに生かすようにする。
- 週案や日案及び保育カンファレンスなどをもとに、記録を累積したり教師相互の**情報交換**や**意見交換**を活用したりして**多面的・継続的**に子ども一人一人のよさや発達を見取る。

※は参考文献等

### 幼稚園教育の充実のために

#### 体を十分に動かす遊びの工夫

- ◎ 活動の場を工夫しながら体を動かす気持ちよさを体験させ、自ら体を動かそうとする意欲を育てる。また、一日あたりの体を動かす時間が合計で**60分間確保**できるように努める。

- ・体を動かすことに視点を置いた遊びを計画する。

～固定遊具を取り入れることにより運動要素が大幅に増える例～

- 例 「鬼ごっこ」  
(追いかけることを中心にした場合の運動要素)  
走る、止まる、かわす

(ジャングルジムを取り入れた場合の運動要素)

- 走る、止まる、かわす、這う、回る、飛び降りる、掴む、しゃがむ、上る、ぶら下がる、下りる、バランスをとる

「運動」と言っても、遊びを通して体を動かすことが基本であることに留意する。



※ 幼児期運動指針（平成24年3月 文部科学省）普及用パンフレット



# 幼稚園教育の充実のために ～保育のチェックポイント～

保育を振り返る際の資料として活用できるように「保育のチェックポイント」を示しました。

「チェック」欄は、日々の保育を振り返ったり、園内研修での協議資料にしたりして保育の充実を図るために御活用ください。なお、「保育の充実」欄の内容は、5領域の指導の重点です。

必要に応じて加筆・修正しながら各園の実態に即した内容に変更し、さらに保育を充実させてください。



項目	意識したいこと	チェック	
指導計画の作成・改善	長期的な見通しをもった特色ある指導計画を作成している。		
	短期的な計画と関連付けた指導計画の改善に取り組んでいる。		
	家庭、地域社会、学校等と連携・協力して指導計画を作成している。		
	子どもの生活・発達・学びの連続性を踏まえた指導計画を作成している。		
保育の充実	健康	幼児期運動指針を踏まえながら、体を十分に動かし、楽しめる遊びの内容・方法・場を工夫している。	
		教師、子ども同士と一緒に楽しく食べる雰囲気づくりをしている。	
		安全に落ち着いて生活できる施設・設備の工夫をしている。	
	人間関係	自分の力で行動することの充実感を味わわせる遊びを設定している。	
		身近な人と親しみ、かかわりを深める教師としてのかかわりをしている。	
	環境	発見を楽しんだり、考えたりする身近な環境にかかわらせる機会を充実させている。	
		物の性質や数量、文字などに対する興味関心を引き出す場を設定している。	
	言葉	自分の気持ちを言葉で表現する機会を得る教師としてのかかわりをしている。	
		想像する楽しさを味わわせる絵本、紙芝居などによる読み聞かせ等を充実させている。	
	表現	豊かな感性を養う直接的な体験活動を充実させている。	
感じたこと、考えたことを絵、音、動きなど様々な方法で表す遊びを設定している。			
特別支援教育の充実	「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」等を作成・活用したり、関係機関との連携を図ったりしながら、教職員の共通理解の下、子どもの実態に応じた指導内容・方法を工夫している。		
評価の工夫・活用	子ども一人一人の発達課題に即した行動の意味を理解し、次の保育に生かす環境の再構成や手立ての工夫に取り組んでいる。		
	週案や日案及び保育カンファレンスをもとに、記録を累積したり教師相互の情報交換や意見交換をしたりして多面的・継続的に子ども一人一人のよさや発達を見取っている。		

# 特別支援教育

※は参考文献等

## 1 全教職員の連携協力による校(園)内支援体制の充実

- **特別支援教育コーディネーター**を中心に、校(園)内委員会や**ケース会議等**を実施して具体的な支援策を検討するとともに、特別支援教育支援員を含めた教職員の間で役割分担を明確にして実践する。また、支援策の定期的な評価や見直しを行うとともに、関係機関等との連携協力、**校(園)内研修等**を積極的にを行い、校(園)内の支援体制を効果的に機能させていく。(次ページ参照)

## 2 一人一人のニーズに応じた指導の充実

- ◎ 「**個別の教育支援計画**」の作成・活用にあたっては、保護者・本人との教育相談を丁寧に行ったり、医療、保健、福祉等の関係機関との連携したりすることにより、子どもの教育的ニーズを把握し、提供する**合理的配慮**について合意形成を図る。また、合理的配慮の内容を明記し、個に応じた適切な支援と評価を行いながら、必要に応じ見直しをする。



画像は、平成29年1月現在のもの

※ インクルDB<インクルーシブ教育システム構築支援データベース> (国立特別支援教育総合研究所HP)

※ インクルーシブ教育システム構築における合理的配慮と教材教具の活用～特別支援教育支援教材ポータル～ (福島県特別支援教育センターHP, 平成29年4月より名称変更予定)

- 各教科・領域等々の年間指導計画や「**個別の教育支援計画**」の内容を踏まえ、子どもの「よいところ、できるところ」や特性を的確に把握し、指導のねらいや支援方法を明確にした「**個別の指導計画**」を作成・活用することにより、具体的な指導や**授業の評価・改善**を行う→P34。
- 支援を必要とする子どもにとって分かりやすい授業は全ての子どもにとっても分かりやすい授業であることを意識し、通常の学級においても**落ち着いた教室環境の整備**、学習目標・学習課題の設定、発問や板書の仕方など、具体的な指導の工夫を行う (※ 「【参考資料】確かな学力の向上のために」P19)。

## 3 集団との関わりを重視したよりよい友達関係の構築

- 得意なことや苦手なこと、自分の持てる力を発揮しやすい学び方等、**一人一人のよさや特性、違い**を認め合う、思いやりのある温かな学級づくりに努める。
- 障がいのある子どもと障がいのない子どもが**共に活動する機会**を意図的・組織的・計画的に確保することにより相互理解を図り、社会性や豊かな人間性を育てる。また、教科等のねらいが達成されるよう、一人一人に必要な**合理的配慮**を提供し、**ねらいを明確にした交流及び共同学習**を行う。

## 4 学校、家庭、地域及び関係機関との連携

- 家庭との信頼関係を大切にし、学習や生活上の課題について共通理解を図る。また、**個別の教育支援計画**を活用するなどして、医療、保健、福祉等の関係機関との連携や通級指導教室と子どもの在籍する学校・学級の教職員との情報交換、進級・進学時の引継ぎ等を積極的に実施し、**一貫性のある具体的な支援**に努める。
- **インクルーシブ教育システム推進事業**や**特別支援学校のセンター的機能**を活用するなどして、全教職員の特別支援教育に関する基礎的な知識・技能の向上を図るとともに、通常の学級、特別支援学級、通級指導教室の授業や支援の充実に生かす。

※ インクルーシブ教育システム推進事業 (県北教育事務所版チラシ)

**特別支援教育に関する相談や支援要請について** 県北教育事務所

**「インクルーシブ教育システム推進事業」をご活用ください!**

【まず電話でご相談ください】  
 県北教育事務所 024-521-2818  
 学校教育課 特別支援教育担当指導主事まで

特別支援学校のセンター的機能を活用した相談支援・研修支援を行います  
 学校等からの相談内容やニーズに応じて、その専門性を有した県北域内の県立特別支援学校の教員を派遣します。

<こんなことができませ>  
 発達や学習・行動面で気になる幼児児童生徒のつまずきの背景・要因に応じた支援、障がいや病状により配慮が必要な幼児児童生徒への対応に関する助言 (ケース会議による支援策や合理的配慮の検討等)  
 個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成・活用支援  
 特別支援学級・通級指導教室の授業づくり等に関する助言 (授業の構想、教材教具、教育課程に関する支援、障がいのある幼児児童生徒の学びの場や進路についての情報提供等)  
 見え方、聞こえ方、学びにくさの体験や視覚体験、障がい理解に関する授業支援  
 特別支援教育に関する研修

電話後、申込み手続きから支援実施までの流れは?

**市町村立幼稚園・小・中学校の場合**  
 ① 市町村教育委員会に、書面で申込みます。  
 ② 市町村教育委員会より県北教育事務所へ依頼が届きます。  
 ③ 教育事務所より当該特別支援学校に教員の派遣を要請します。  
 ④ 当該特別支援学校から依頼主の学校等に連絡し、日程調整等を行います。  
 ⑤ 特別支援学校教員が当該学校等を訪問し、支援を行います。

**高等学校、保育所、私立幼稚園・保育所・学校の場合**  
 ① 県北教育事務所に、書面で申込みます。  
 \* ②～⑤までの流れは、市町村立学校等と同じです。

要請内容によっては、県北教育事務所指導主事が相談や指導助言を行います  
 対応困難な事例、他機関との連携等の相談に応じます。また、授業研究会や校(園)内研修等での指導助言、「個別の教育支援計画・指導計画」の作成・活用や教育課程の編成等に関する指導助言を行います。  
 電話後、書面での派遣申請をお願いします。

# 明日からの支援のために ～ケース会議の進め方～

特別な支援を必要とする子どもの具体的な支援策を検討するためには、特別支援教育コーディネーターを中心に、担任をはじめ、子どもとかかわりのある教職員が集まって行うケース会議が有効です。学年会や生徒指導部会等、既存の組織を活用することも可能です。まずは先生方がチームとなり、取り組んでみましょう。

## 目標45分！次の手順でケース会議を行ってみませんか？



対象児童 Aさん

### 手順1

**気になる子どもの行動を一つ取り上げ、具体的に話し合う。**

担任や担当の先生から、特に困っていることをあげてもらいます。どんな時にその行動が見られるか等、具体的な行動を話せるように、他の先生も質問していきましょう。

(気になる行動) 全校集会で大きな声を出したり、整列せずに動き回ったりしている。

「校長先生の話が終わると、体育館を出て行ってしまおう。」

「学級の列に戻るよう促すと、大声を上げ、動き回る。」

### 手順2

**その一方で、本人の特技、興味関心は何か考える。**

他の先生からも授業での様子を聞き取るなど、子どもの行動を多面的にとらえ、よいところや得意な面も明らかにしましょう。

「慣れていることや方法が分かっていることへの取組はスムーズ。手順書を読んで作ることは得意。」



「集会活動も20分は集中できる。」

よいところや得意なことが、支援策検討の手がかりになります。

### 手順3

**子どもの立場から、気持ち・考え・判断を推測する。**

「子どもの立場に立つ」という視点が大切です。「子どもがその時本当はどうしたかったのか」「どんな気持ちだったのか」を推測しましょう。

「校長先生の話が終わったから、全校集会は終わり、教室に帰れると思ったのかな？」

「集会がなかなか終わらないので、イライラしたのでは？」

### 手順4

**子どもの行動の背景や要因を推測し、つまずきの原因と思われることについて考えましょう。**

子どもの思いをくみながら、なぜ手順1の「気になる行動」が起きてしまうのかを考え、意味付けを行います。参加した先生みんなで考え、積極的に発言しましょう。

「何をやるのか、いつ終わるのか、見通しがもてないのでは？」

「集中を持続できる時間を超えて、限界だったのかも。」

できた時の状況を確認し、なぜできたのか考えると、背景要因に気づきやすくなります。手順2の特技や興味関心も参考にしましょう。



### <支援策>

### 手順5

**支援策を考え、具体化しましょう。**

なぜそう考えたかという理由を述べながら、支援策を出し合います。出された支援策はすべて肯定的に取り上げます。

- ・ 集会に行く前に、内容をメモにして説明する。終わりの時間をあらかじめ伝えておく。(担任)
- ・ 集会の進行表を具体的に作成する。(集会係)
- ・ 終わりの時間が過ぎそうになった場合には、教室に戻るのか、何時までいられるのかを選択させる。(担任)
- ・ 教室に戻ったら課題を選んで行うよう伝え、取り組ませる。(特別支援教育支援員)

### 手順6

**実践したい支援策を選び、実行を宣言しましょう。**

担任、担当がこれならできる！というものを一つか二つ選び、発表しましょう。支援策が決まったら、誰が、何を、いつ行うのか、役割分担を明確にして実践しましょう。

話し合った目標や支援策は、「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」に記入し、指導に生かしましょう。最後に次のケース会議をいつにするか決め、支援策の評価を行いましょう。



# 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を生かした授業充実のために

一日の学校生活において、生活の中心になるのは授業です。その授業を子どもにとって分かりやすいものにしていくことは、一人一人の学びの充実につながるだけでなく、将来の自立と社会参加の態度を養う基盤としても大切です。「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」との関連も考慮し、子どもの実態や特性、教育的ニーズを授業に生かしましょう。

## 知的障がい特別支援学級（算数）の授業を例に考えてみましょう。



対象児童 A さん（4年生）

### 「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」における A さんの実態や特性、教育的ニーズ（一部抜粋）

- ・ 活動の見通しがもてないと不安定になり落ち着きがなくなるため、前もって予定を示すようにする。（合理的配慮①）
- ・ 文字や絵など視覚的な情報があると理解しやすい。（合理的配慮②）
- ・ 間違いを他人に指摘されるのが嫌。指摘されると行動が滞ったり、課題を投げ出してしまったりすることがある。
- ・ 今まで学んできた長さや量、時刻や時間、金銭についての理解を深め、生活の中で生かせるようになってほしい。

算数では、これまで学んだ数量に関することを生活の中で使えるよう、金銭についても取り上げよう！生活単元学習「わくわく作品展に行こう」の販売コーナーでの買い物学習にもつなげられたらいいな。



### 単元や授業で扱う内容に関する詳細な実態を把握します。A さんの場合は・・・

- 財布に 200 円入れ、おやつを買いに行く。200 円以内の商品を選び、200 円を出して購入することができる。
- 繰り上がりや繰り下がりのない 3 桁までの筆算ができる。100 円、10 円、1 円硬貨を組み合わせてちょうどのお金を準備し、支払うことができる。
- 50 円硬貨があっても 10 円硬貨 5 枚を探して戸惑うなど、5、50、500 円を含む貨幣の等価関係の理解は難しい。

### 「子どもに身につけさせたい力」を明らかにし、具体的な目標設定を行います。

A さんの本時の目標・・・「お金変身カードを手がかりにして貨幣の等価関係を考えることにより、50 円硬貨や 500 円硬貨を使って何百何十円の支払いができる。」

2 年生の B さんは (何十) + (何十) や (何十) + (何十何) の計算ができるようにしたいな。



### 指導案における A さんの指導過程（一部抜粋）

学習活動・内容	○指導上の留意点 ◆支援の手だて ※評価
<p>1 本時の学習内容を知り、課題をつかむ。</p> <p>パンのねだんに合うお金はどれかな。</p> <p>① お金のべんきょう ←</p> <p>② かいものごっこ・・・</p>	<p>○ 値段のついたパンの模型を提示しながら前時より多くの金種を使って買い物をすることを知らせ、本時の課題をつかむことができるようにする。</p> <p>○ 本時の学習内容をカードで提示し、今やる活動を矢印で示すことにより、学習の流れの見通しをもつことができるようにする。</p> <p><b>合理的配慮①</b></p>
<p>2 個別の課題を行う。</p> <p>(1) 使用する硬貨を準備し、値段に合った硬貨の出し方を考える。</p> <p>ア 硬貨を金種毎に分け、財布に入れる。</p> <p>イ パンの値段に合う硬貨を考えて出す。</p> <p>① 30 円、200 円</p> <p>② 60 円、170 円、620 円等 (50 円硬貨や 500 円硬貨も使い、いろいろな金種の硬貨を組み合わせる出す)。</p> <p>＜お金変身カード例＞</p>	<p>○ 硬貨の写真を貼った金種別の透明ケースを用いることにより、金種とその名称を確認しながら分類できるようにする。</p> <p>◆ 財布には 10 円硬貨 8 枚、100 円硬貨 8 枚、50 円硬貨 3 枚、500 円硬貨 2 枚が入るようにする。②で「60 円を 10 円硬貨だけで出そうとすると足りない」という状況を意図的に生じさせることにより、50 円硬貨を使った出し方を考えることができるようにする。同様の状況設定により、500 円硬貨を使った出し方についても考えることができるようにする。</p> <p>◆ 出し方が分からない時には、「お金変身カード」を見たり操作したりしながら考えさせることにより、等価関係に気付くことができるようにする。</p> <p><b>合理的配慮②</b></p> <p>◆ 値段カードの裏には、値段に合った硬貨の写真を示しておくことにより、裏返すことで支払った金額の正誤を自分で確かめることができるようにする。</p> <p><b>心理面の実態からの配慮</b></p>
<p>※ 同じ学級の B さんは、A さんが先生と学習している間、前時の復習の課題に一人で取り組んでいます。</p>	

## 平成28年度の要請訪問を振り返って

「【県北版】学校教育指導の重点」、「【県北版】リーフレット」、「【参考資料】確かな学力の向上のために」で示した「授業づくりの6つポイント」、「学習基盤づくり」、「特別支援教育の充実」の評価の観点に照らした成果と課題をまとめました。

## 問題解決的な学習を中軸とした授業の充実

## 授業づくりのポイント1

## 単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構想の工夫

- 単元のねらいをとらえた系統性や関連性等のある単元を構成しているか。
  - 小学校から中学校、中学校から高等学校と、次の校種の学習との関連性を分析する教師が増えてきている。中には、小学校から高等学校までの12年間の長期的な見通しをもって単元の指導計画を立てる教師も見られた。
  - 単元のねらいの把握が不十分なために、ねらいからまとめまでの一貫性に欠ける授業が散見された。学習指導要領を基に単元のねらいを明確にし、何をどのように学ばせるのかを明確にした教材研究に取り組む必要がある。
- 普段の授業や各種調査から単元展開や授業に生かせる実態把握を行っているか。
  - 全国学力・学習状況調査や県学力調査の解答類型や誤答の分析を行った上で子ども一人一人の実態を把握し、その実態に応じた指導内容の重点化を図ったり、指導方法を工夫したりする授業案が見られた。
  - 教師の予想とは異なる反応に対して、十分に取り上げられず教師が主導的にまとめる場面が見られた。各種調査やレディネステスト、事前アンケートを活用して、子どものつまずきや反応の予測を十分に行っておく必要がある。
- 目指す子どもの姿を具体的にとらえ、指導に生かせる評価計画を立てているか。
  - 知識・理解のみに焦点を当てるのではなく、単元を通して育てたい資質・能力を明らかにして、単元の評価計画を立てている授業案を多く見るようになった。
  - 評価が終末段階に位置付いているために、本時の授業内で指導に生かせない場合があった。指導と評価の一体化を念頭に置き、評価結果を次の指導にどのように生かすかについて、授業案に明記したい。

## 授業づくりのポイント2

## ねらいからまとめまでの整合性を図り、子どもの思考を大切にしながら、目指す子どもの姿と手立てを明確にした授業設計

- 単元のねらいから本時のまとめまでの整合性を図っているか。
  - 多くの学校において、「ねらいからまとめまでの整合性」を授業改善の重要な視点として取り上げている。事前研究会で子どもの思考の流れを想定して検討している事例があった。
  - 単元のねらいを達成するために、本時の学習をどのように発展していくのかを教師が十分に理解していないことがあった。単元構想を踏まえた授業設計を心がけたい。
- 子どもが課題をもち、解決に取り組むための具体的な手立てを講じているか。
  - 課題解決に向けて、子どもが主体的に取り組むように、教師が言語活動を手立てとして位置付けている。その効果を高めるよう熱心に校内研修を行っている学校が多く見られた。
  - 事前に準備した手立てにこだわりすぎるために、子どものつぶやきや反応を生かしきれない場面がある。子どもの実態を的確に理解し、様々な反応を想定して子どものよさを瞬時に認めることができる教師でありたい。
- 子どもの思考の流れを想定した構造的な板書計画になっているか。
  - 「めあて」や「まとめ」の位置や色を統一して教科の特性を考慮した構造的な板書を研究するなどの取組が見られた。また、板書計画により常に授業の全体像を念頭において授業を行っている教師も見られた。
  - 綿密な教材研究を行い、教えたい内容が多いゆえに教師主導の傾向が強まることもある。一人一人の個性や興味・関心をとらえ、子どもの考えを位置付けた板書計画を作成し、授業設計に生かしたい。

### 授業づくりのポイント 3

#### 必然性があり意欲が高まる学習課題の設定と解決の見通しをもたせる工夫

- 子どもにとって考える必然性があり、解決への意欲が高まる学習課題を設定しているか。
  - 生活場面から問題を取り上げ、子どもの疑問から課題を設定し、学びに必然性をもたせた授業が見られるようになった。子どもの「やってみたい」「上手になりたい」「できそうだ」「もっと〇〇したい」という学習意欲を高めるような既習事項の確認や課題提示の工夫が見られるようになってきた。
  - 課題設定、めあての設定まで教師主導となり、子どもが受け身となっている授業もまだ多い。子どもが本時の課題で何を学びたいのか、どのような力を身に付けたいのかを考えさせ、子どもの「問い」を学習課題につなげる発問を工夫する必要がある。
- 子どもが解決の見通しをもてるように、課題解決の方法や調べる視点等をもたせているか。
  - 本時の課題解決に必要な既習事項の確認をしたり、考える視点を自然と想起できるように学級の掲示を工夫したりすることで、子どもに解決の見通しをもたせる授業が多く見られた。
  - 子どもが本時の課題をどのように捉えたか、見取る手立てが不十分な授業が散見された。子どもがどのような見通しをもったのか、ペアで確認させるなどして見取る場面を設定することを大切にしたい。

### 授業づくりのポイント 4

#### 思考を促し、見取り、生かす教師の働きかけの充実

- 考える視点や方法、手がかりを明確にもたせるとともに、思考を促す発問を行っているか。
  - 一問一答型の発問から、多様な考えを促す発問への転換を意識して実践している授業を多く参観することができた。子ども一人一人が思考を働かせ、自分の考えをしっかりもつことができていた。
  - 子どもが何について考え、どのような結論を出せばよいのかが分からずに、自力解決に向かう場面が見られた。自分の考えをもつときに、視点を与えたり観点を整理したりして、何についてどのように考えればよいのかを子どもにつかませることが重要である。
- 適切な机間指導により、子どもの学習状況等を見取り、本時における次の授業展開に生かしているか。
  - その時間に子どもに考えさせたいことは何かを明確にし、机間指導中に座席表や児童生徒名簿を使って思考の傾向を見取り、全体の話し合いに生かしている授業を見ることができた。
  - 意図的・計画的な机間指導とはなっていない授業も見られた。机間指導の中で、見取りと個別指導を効率的に行えるような計画があると次の授業展開に生かすことができる。そのためにも、予想される子どもの反応はあらかじめ想定して授業に臨みたい。
- 一人一人の学習状況を把握し、個に応じた適切な支援の手立てを講じているか。
  - 子どもの発言をよく聞き、それを称賛・価値付けしながら学習活動に生かす教師の姿が多く見られた。子どものよさを認め、有用感、充実感をもたせることで、次時への意欲につなげていた。
  - 教師が期待する考えのみを価値付ける働きかけも見られた。多様な考えを認めながらも、「本時のねらい」を明確にもち、目指す子どもの姿をイメージすることで、子どもの思考に寄り添った個に応じた働きかけが可能になる。

## 授業づくりのポイント5

### 思考の共有と吟味を促す学び合いをコーディネートする力の向上

- 思考の共有と吟味を通して、子どもが新たな考えをつくり出せるような学び合いをさせているか。
  - ホワイトボード等のツールを活用したり、「要約」や「予想」「再生」などの子ども同士の考えをつないだりする教師のコーディネートが見られるようになってきた。
  - 学び合いが目的となってしまう、学習のねらいを達成するための活動になっていない授業が見られた。子どもにねらいをしっかりと把握させる段階を大切にしたい。
- 学び合いの目的を踏まえた学習形態を工夫しているか。
  - 個人での学習からペア学習やグループ学習を経て、全体でその内容を共有するような場を設定している授業が多く見られた。
  - 学習形態の目的が不明確な授業、特定の「学習の型」を優先して本時のねらいとずれてしまう授業が見られた。より効果的な学習形態や支援の在り方について研修を深める必要がある。

## 授業づくりのポイント6

### 学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実が図られていたか。

- 課題との整合性を意識しながら、学習内容の定着を図る「振り返る活動」になっているか。
  - 本時の学習内容を板書で振り返りながら教師と一緒にまとめたり、キーワードを示して自分の言葉でまとめたりするなど工夫した取組が見られた。
  - 振り返る視点が不明確なため、学習感想の内容が、「楽しかった」「おもしろかった」という感想で終わってしまう授業が見られた。見通しの段階から、子ども自身が振り返る視点を明確にもち、学習活動の中でも意識できるようにする必要がある。
- 学習を振り返ることができるノートになるよう、適切な指導を行っているか。
  - 学校全体で共通理解を図り、学習を振り返ることができるノート指導を実践している学校が見られた。板書を写すだけでなく、どこに、何を書くのかを、発達段階や教科等の特質を考慮して具体的な指導がなされており、本時の学習内容が意識化され、確かな定着につながっていた。
  - ワークシートを使用した授業の終末で、あらかじめまとめが書かれていて、空欄の穴埋めを行って、まとめをしている授業が見られた。学習内容や見方・考え方を子どもたちの言葉でまとめたり説明したりすることで、確かな定着につなげていきたい。
- 学習内容の再生の場やねらいに合った適用問題を設定して、学習内容の定着を図っているか。
  - 授業案に適用問題を位置付ける授業が多くなってきた。適用問題については、一般化を図ることができたり理解を深めることができたりするよさがあるので、引き続き、本時のねらいに合った適用問題を位置付けたい。
  - 時間内に適用問題やまとめまでいかない授業や、知識の確認程度で終わっている授業が見られた。導入や展開の段階での活動を効率的に行わせ、十分な時間を確保する必要がある。
- 自己の変容や成長を自覚させることにより、充実感や満足感を味わわせ、次の学習への意欲を高めているか。
  - 授業の終末だけでなく、各段階で子どもの達成度を見取り、個別指導や全体での確認に生かす教師の働きかけが見られた。
  - 自分の成長を自覚させようとする意識が弱い授業が多く見られた。自分の考えがどのように変容したか、友達とのかかわり合いで考えがどのように深まったかという学びのプロセスを振り返ることを意識的に行いたい。

## 学習基盤づくり

### 学習・学級集団づくり

- 学校経営方針の明確化と全職員が組織的に関わる体制づくりができているか。
  - 学校全体で共通の「学習の約束」を決めて行っているところは、学力向上の面でも成果を上げている。例えば「〇〇学校学びの手引き」という形で授業の約束を教師と子ども、家庭が共有している取組などがある。
  - 教室環境やノートづくり等が教師一人一人の力量に任されていることが多いように感じた。「板書を写すだけではなく自分の考えをノートに書かせる取組」を学校全体行うなど、各種調査やアンケート等の分析から課題をとらえて、組織的に取り組んでいけば更なる成果が期待できる。
- 全員が気持ちよく学ぶためのルールが明確化・共有化されているか。
  - 「友達の話をつなげながら聴く」「友達の話最後まで聴いてから自分の意見を話す」など、全員が気持ちよく学ぶためのルールが確立された学級が多く見られるようになった。「誰もが認められ、尊重し合い、互いに高め合う集団づくり」が大事であることは各学校において浸透してきている。
  - 学級毎に学習のルールがつけられている学校が見受けられた。学校全体で子どもの実態や発達段階に応じたものを作成し、つながりのある実践をしていけば、子ども達に発達段階に合った主体的な学習態度が養われていくと思われる。
- 一人一人を大切に、結果だけでなくプロセスを認め、奨励、称賛する教師の姿勢が見られるか。
  - 授業において、教師が子どもの発言やつぶやき等をとらえて「承認・奨励・称賛」する場面が多く見られた。例えば、教師が子どもの発言をつなげながら聞き、褒め、価値付けている姿である。
  - 教師の発問に対して子どもがこたえる場面において、教師が予想している発言だけを称賛し、それ以外のものに対しては、取り上げない場面が見受けられた。子どもの素直な発言、疑問、つまりき等も取り上げ、そこから授業のねらいに迫っていけるようなプロセスを大事にしたい。
- 相手を尊重しながら自分の意見を主張できる態度が育成されているか。
  - グループでの話し合いの中で、友達の考えを受けて自分の考えを付け足す姿や友達の考えで分からないところを尋ねることによりその考えを明確なものにしていく姿が見られた。互いに学び合う学習集団づくりが進んでいる。
  - グループの話し合いで、双方向になっていない場面が見られた。まずは、相手の話をうなづきながら聴く、分からないところは質問するなどの「共感」「グループ全体で考えを広げ、深めていこうとする姿勢」などを育てていきたい。

## 特別支援教育の充実

### 一人一人のニーズに応じた指導の充実

- 家庭や本人との丁寧な教育相談に基づく個に応じた支援の充実が図られているか。
  - 支援を必要とする子どもへの合理的配慮として、黒板周りに余計なものを掲示しないなど集中しやすい環境を設定する、見通しがもてるようなスケジュールや分かりやすい手順表を掲示するなど、個に応じた配慮や工夫を行っている学校が多く見られた。通常学級でも同様の配慮を行うことで、支援を必要とする子どもだけでなく、学級全体の落ち着きにつながっているといった成果を上げていた学校もあった。
  - 通常学級では、支援を必要とする子どもだけを特別扱いできないとの考えから、保護者・本人が求めている支援を行うことに躊躇しているといった場合がある。違いを



認め合う学級の土壌を大事にしながら、保護者・本人の願いや教育ニーズを確認し、提供可能な合理的配慮を話し合いながら決定していく必要がある。

- 「個別の教育支援計画」を保護者とともに作成・活用し、「個別の指導計画」を基にした授業の工夫・改善が行われているか。
  - 「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」との関連を踏まえ、目指す子どもの姿や子どもの特性、必要な配慮などが授業案上で明確になっている授業では、ねらいに迫るための具体的な手立ても用意され、子どもが主体的に学んでいることが多かった。
  - 特別支援学級の「生活単元学習」や「自立活動」の授業で、子どもに何を身に付けさせたいのかがあいまいで、活動することが中心になっている授業が見られた。子どもの興味・関心、意欲を大切にしながらも、「何を身につけさせたいのか」「どんなことができるようになってほしいのか」など目指す子どもの姿と支援の手立てを明確にした授業づくりを心がけたい。

### **集団の中で助け合い、共に伸びる友達関係づくりへの支援の充実**

- 互いのよさや特性等を認め合う集団づくりの推進がなされているか。
  - 支援を必要とする子どものよいところやできることを生かして活躍できる場面を設けたり、間違いであっても子どもの発言のよいところを肯定的に評価したりすることで、子どもが前向きに学習や活動に取り組もうとする姿が見られた。
  - 衝動的な行動や暴力等の問題行動が継続的に生じているような場合には、本人の自己評価だけでなく周囲からの評価も低くなり、それが更なる問題行動等につながる場合もある。担任が同僚や管理職等に相談しやすい雰囲気をつくるとともに、管理職や特別支援コーディネーターを中心にケース会議を開催したり必要に応じて関係機関と連携したりするなどの対応をできるだけ早く行うようにしたい。
- 教師が仲立ちとなり、適切に関わり合わせるための支援の工夫がなされているか。
  - 通常学級では、支援を必要とする子どもに個別に配慮するだけでなく、周囲の子どもの座席配置を工夫したり、教師が仲立ちとなって子ども同士をつないだりするなど、学び合う環境を工夫している取組が見られた。
  - 特別支援学級と通常学級の交流及び共同学習では、学年が上がるにつれて友達関係に課題が生じたり、各教科等の学習が難しくなったりするなどの悩みが担任から多く聞かれた。双方の担任間でねらいを焦点化し、効果的な実施方法について話し合うとともに、支援に当たる特別支援教育支援員などともこれらのことを確認したい。



福寿草の花言葉：  
「幸せを招く」「永久の幸福」